

超小型 300mA 2ch LDO レギュレータ

NO. JA-137-111020

■ 概要

RP150Kシリーズは、CMOSプロセスを用いて開発した高精度出力電圧、低消費電流、低入出力電圧差、高リップル除去率等を兼ね備えたボルテージレギュレータ(LDO)です。各ボルテージレギュレータICは、基準電圧源、誤差増幅器、電圧設定用抵抗網、電流制御回路、チップイネーブル回路で構成されています。

低ON抵抗トランジスタ内蔵により出力電圧差を限りなく小さくし、チップイネーブル端子の機能が各システムの電池寿命を長くすることを可能にしました。本製品は入力過渡応答、負荷過渡応答に優れているため、携帯用通信機器の電源ICとして使用するのに適しています。

DFN(PLP)2020-8パッケージに2ch LDOレギュレータを高密度で搭載しております。

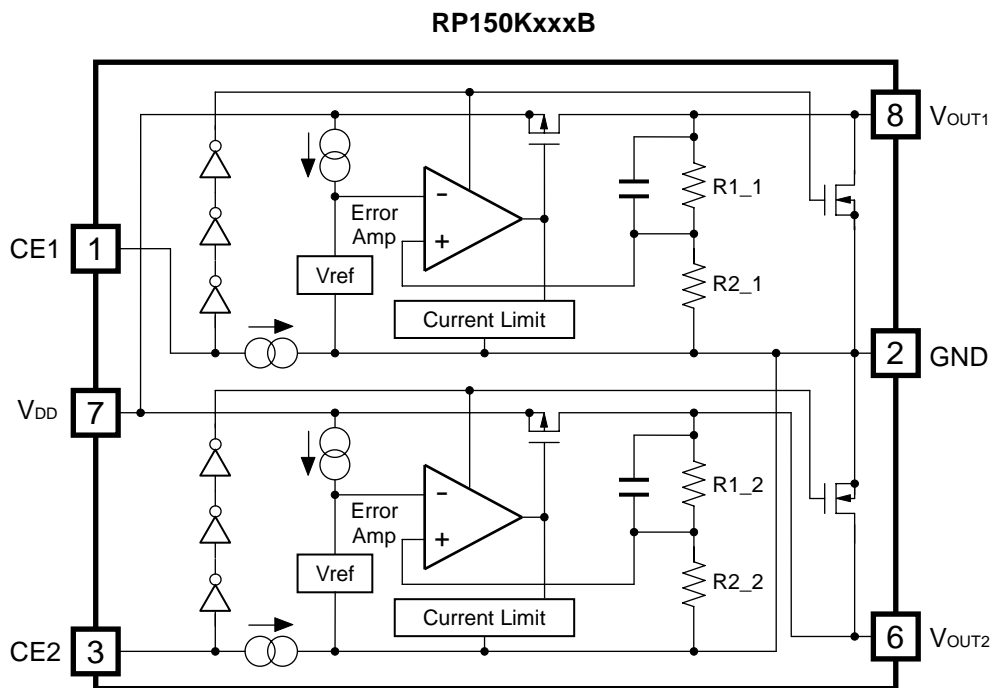
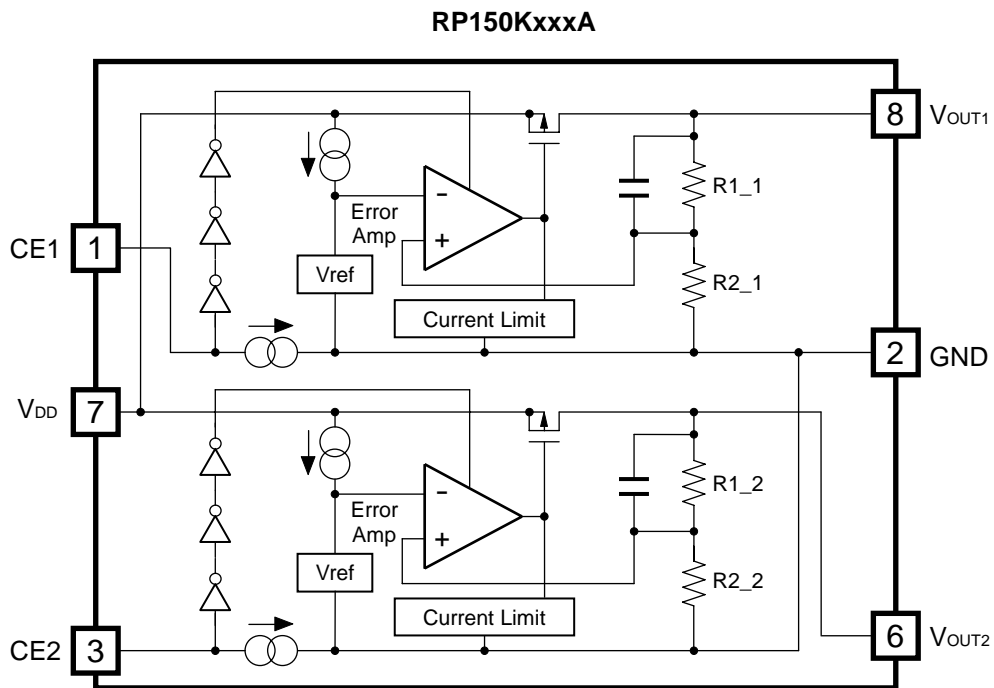
■ 特長

- 消費電流..... Typ. 24 μ A \times 2 (VR1&VR2)
- 消費電流 (スタンバイ時) Typ. 0.1 μ A \times 2 (VR1&VR2)
- 入出力電圧差 Typ. 0.21V ($I_{OUT}=300$ mA、 $V_{OUT}=2.8$ V)
Typ. 0.24V ($I_{OUT}=300$ mA、 $V_{OUT}=2.5$ V)
- リップル除去率..... Typ. 80dB ($f=1$ kHz)
- 出力電圧の温度係数..... Typ. ± 30 ppm/ $^{\circ}$ C
- 入力安定度 Typ. 0.02%/V
- 出力電圧精度 ± 1.0 %
- 入力電圧範囲 2.5 \sim 5.25V
- 出力電圧範囲 1.5V \sim 3.3V (0.1V単位)
*詳細はマーキング情報をご参照ください。
- パッケージ..... DFN(PLP)2020-8
- 短絡電流制限回路内蔵..... Typ. 50mA
- オートディスチャージ機能搭載 Bバージョン
- セラミックコンデンサ対応..... 1.0 μ F以上

■ アプリケーション

- 携帯用通信機器定電圧源
- カメラ、ビデオ、ビデオカメラの定電圧源
- バッテリー使用機器の定電圧源

■ ブロック図



■ セレクションガイド

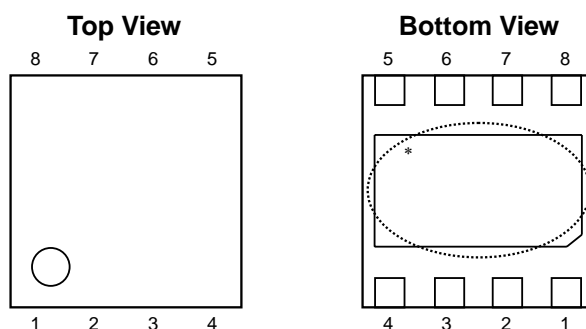
RP150Kシリーズは、出力電圧、オートディスチャージ機能の有無等を用途によって選択指定することができます。

製品名	パッケージ	1 リール個数	鉛フリー	ハロゲンフリー
RP150Kxxx*-TR	DFN(PLP)2020-8	5,000pcs	○	○
<p>xxx : 出力電圧 (V_{OUT}) の組合せを開発通し番号で指定。001 より順番に採番されます。 各 ch.の V_{OUT} は 1.5V~3.3V の範囲で 0.1V 単位にて指定可能です。 (詳細はマーキング情報をご参照ください。)</p> <p>* : オートディスチャージ機能の有無を下記から選択 (A) オートディスチャージ機能なし (B) オートディスチャージ機能あり</p>				

オートディスチャージ機能とは、アクティブ状態からスタンバイ状態にチップイネーブル信号を切替えた時に、外付けコンデンサにたまった電荷を抜き、出力を素早く0Vに落とす機能です。

■ 端子接続図

● DFN(PLP)2020-8



■ 端子説明

● DFN(PLP)2020-8

端子番号	端子名	機能
1	CE1	チップイネーブル端子 1 ("H"アクティブ)
2	GND	グラウンド端子
3	CE2	チップイネーブル端子 2 ("H"アクティブ)
4	NC	ノーコネクション
5	NC	ノーコネクション
6	V _{OUT2}	出力端子 2
7	V _{DD}	入力端子
8	V _{OUT1}	出力端子 1

*) パッケージ裏面のタブの電位は基板電位 (GND) です。
 GND端子と接続する (推奨) か、オープンとしてください。

■ 絶対最大定格

記号	項目	定格値	単位
V_{IN}	入力電圧	6.0	V
V_{CE}	入力電圧 (CE 端子)	6.0	V
V_{OUT}	出力電圧	$-0.3 \sim V_{IN} + 0.3$	V
I_{OUT1}	出力電流 1	400	mA
I_{OUT2}	出力電流 2	400	mA
P_D	許容損失 (DFN (PLP) 2020-8) (標準実装条件)*	880	mW
T_{opt}	動作周囲温度	$-40 \sim 85$	°C
T_{stg}	保存周囲温度	$-55 \sim 125$	°C

*) 許容損失、標準実装条件については、パッケージ情報に詳しく記述していますのでご参照下さい。

絶対最大定格

絶対最大定格に記載された値を超えた条件下に置くことはデバイスに永久的な破壊をもたらすことがあるばかりか、デバイス及びそれを使用している機器の信頼性及び安全性に悪影響をもたらします。絶対最大定格値でデバイスが機能動作をすることは保証していません。

■ 電気的特性

● RP150KxxxA/B (VR1/VR2 共通)

条件に記載なき場合

$V_{IN} = \text{Set } V_{OUT} + 1V$ (2つのLDOレギュレータのうち、設定電圧の高い方の電圧で V_{IN} を定義します)

$I_{OUT} = 1mA$ 、 $C_{IN} = C_{OUT} = 1\mu F$

$T_{opt} = 25^\circ C$

記号	項目	条件	Min.	Typ.	Max.	単位	
V_{OUT}	出力電圧	$V_{IN} = \text{Set } V_{OUT} + 1V$ $I_{OUT} = 1mA$	$V_{OUT} > 2.0V$	$\times 0.99$		$\times 1.01$	V
			$V_{OUT} \leq 2.0V$	-20		+20	mV
I_{OUT}	出力電流		300			mA	
$\Delta V_{OUT} / \Delta I_{OUT}$	負荷安定度	$1mA \leq I_{OUT} \leq 200mA$		20	40	mV	
V_{DIF}	入出力電圧差	$I_{OUT} = 300mA$	$1.5V \leq \text{Set } V_{OUT} < 1.7V$		0.40	1.00	V
			$1.7V \leq \text{Set } V_{OUT} < 2.0V$		0.34	0.80	
			$2.0V \leq \text{Set } V_{OUT} < 2.5V$		0.29	0.50	
			$2.5V \leq \text{Set } V_{OUT} < 2.8V$		0.24	0.38	
			$2.8V \leq \text{Set } V_{OUT} \leq 3.3V$		0.21	0.34	
I_{SS}	消費電流	$I_{OUT} = 0mA$		24	33	μA	
$I_{standby}$	消費電流 (スタンバイ時)	$V_{CE} = 0V$		0.1	3.0	μA	
$\Delta V_{OUT} / \Delta V_{IN}$	入力安定度	$\text{Set } V_{OUT} + 0.5V \leq V_{IN} \leq 5.0V$ ($V_{OUT} \leq 2.0V$ の場合は、 $2.5V \leq V_{IN} \leq 5.0V$)		0.02	0.10	%/V	
RR	リップル除去率	$f = 1kHz$, リップル $0.2V_{p-p}$ $V_{IN} = \text{Set } V_{OUT} + 1V$, $I_{OUT} = 30mA$ ($V_{OUT} \leq 2.0V$ の場合は、 $V_{IN} = 3.0V$)		80		dB	
V_{IN}	入力電圧 *		2.5		5.25	V	
$\Delta V_{OUT} / \Delta T_{opt}$	出力電圧温度係数	$-40^\circ C \leq T_{opt} \leq 85^\circ C$		± 30		ppm/ $^\circ C$	
I_{SC}	短絡電流	$V_{OUT} = 0V$		50		mA	
I_{PD}	CE プルダウン定電流		0.05	0.3	0.6	μA	
V_{CEH}	CE 入力電圧 "H"		1.5			V	
V_{CEL}	CE 入力電圧 "L"				0.3	V	
en	出力雑音電圧	$BW = 10Hz \sim 100kHz$		30		μV_{rms}	
R_{LOW}	オートディスチャージ Nch Tr. ON 抵抗 (Bバージョンのみ)	$V_{IN} = 4.0V$ $V_{CE} = 0V$		30		Ω	

*) 動作定格(電気的特性)の入力電圧は最大 5.25V ですが、何らかの事由でそれを超える場合には 5.5V までで累積 500 時間までにとどめてください。

動作定格 (電気的特性) について

半導体が使用される応用電子機器は半導体はその動作定格範囲で動作するように設計する必要があります。ノイズ、サージといえどもその範囲を超えると半導体の正常な動作は期待できなくなります。また動作定格の範囲外で動作させ続けた場合は、その半導体が本来持っている信頼性を維持できなくなります。

■ 使用上の注意

● 基板実装について

V_{DD} 、および、GND配線のインピーダンスが高いと電流が流れた時、ノイズのまわり込みや動作が不安定になる原因になるので充分強化して下さい。

また、 V_{DD} 端子-GND端子間に $1.0\mu\text{F}$ 程度以上のコンデンサC1を、できるだけ配線が短くなるように付けて下さい。

さらに、位相補償用の出力側コンデンサC2とC3については V_{OUT} 端子と電源GND間にできるだけ配線が短くなるように付けて下さい。

● 位相補償について

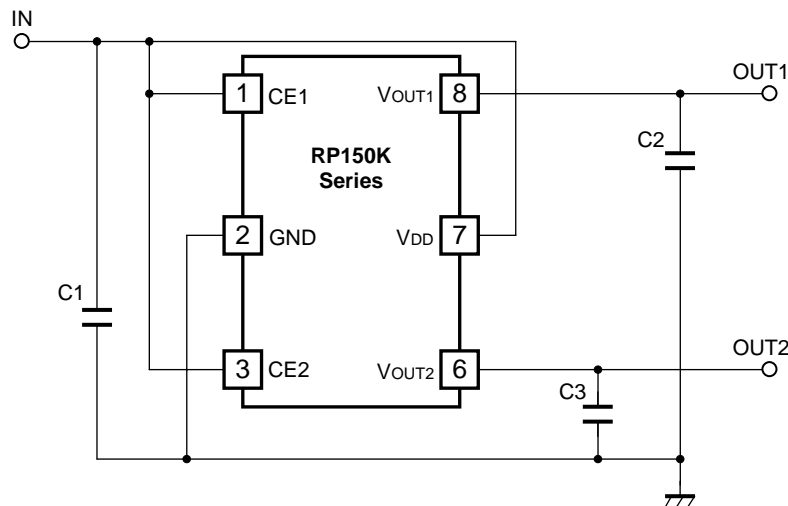
本ICは、出力負荷が変化しても安定に動作させるために、出力段にて位相補償を行っています。

そのため、周波数特性が良く、直列等価抵抗(ESR)の低い $1.0\mu\text{F}$ 以上のコンデンサC2、C3を V_{OUT} 端子とGND端子間にできるだけ配線が短くなるようにつけてください。

なお、タンタルコンデンサを使用する場合、ESRの値が大きいと、出力が発振する可能性がありますので、周波数特性を含めて充分評価して下さい。

また、コンデンサのサイズ、製造元や品番により容量値のバイアス依存性や温度特性などが異なりますので、十分評価してください。

■ 基本回路例

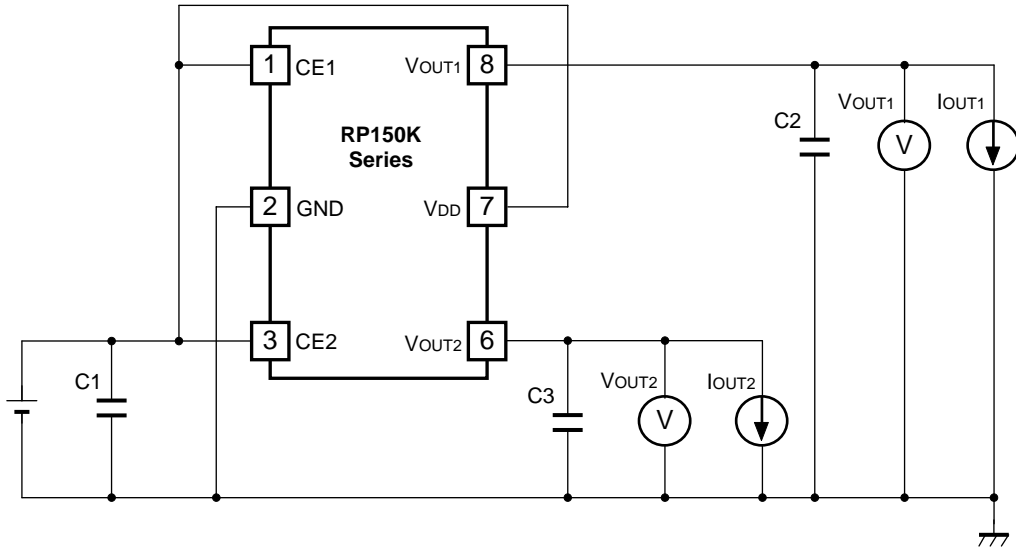


外付け部品参考例

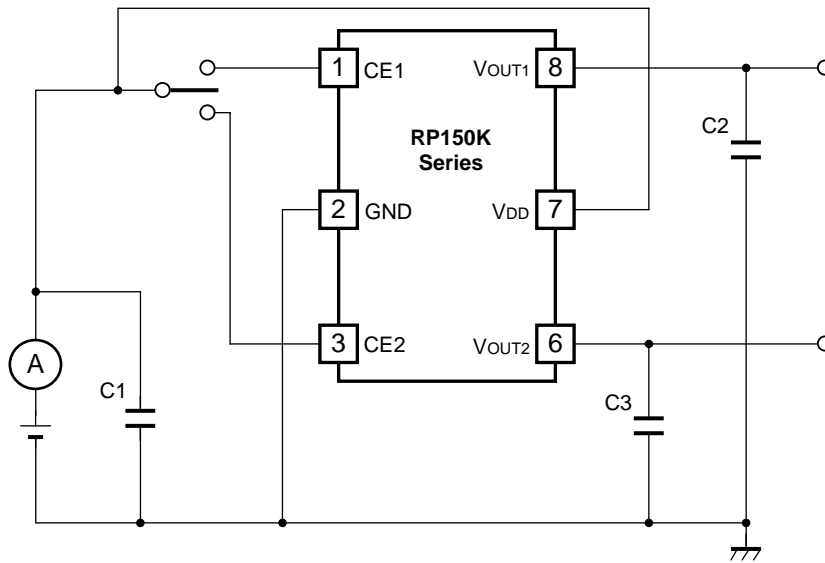
外付けコンデンサ、セラミックタイプ C1, C2, C3

1.0 μF	京セラ製	CM05X5R105KD6AB
	TDK製	C1005JB0J105K
	村田製作所製	GRM155B31A105KE15

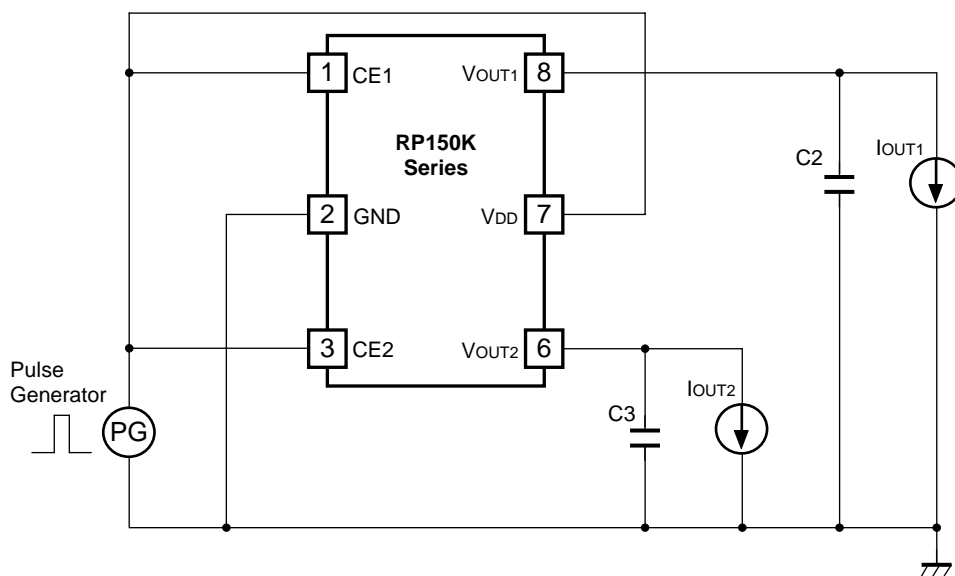
■ 測定回路



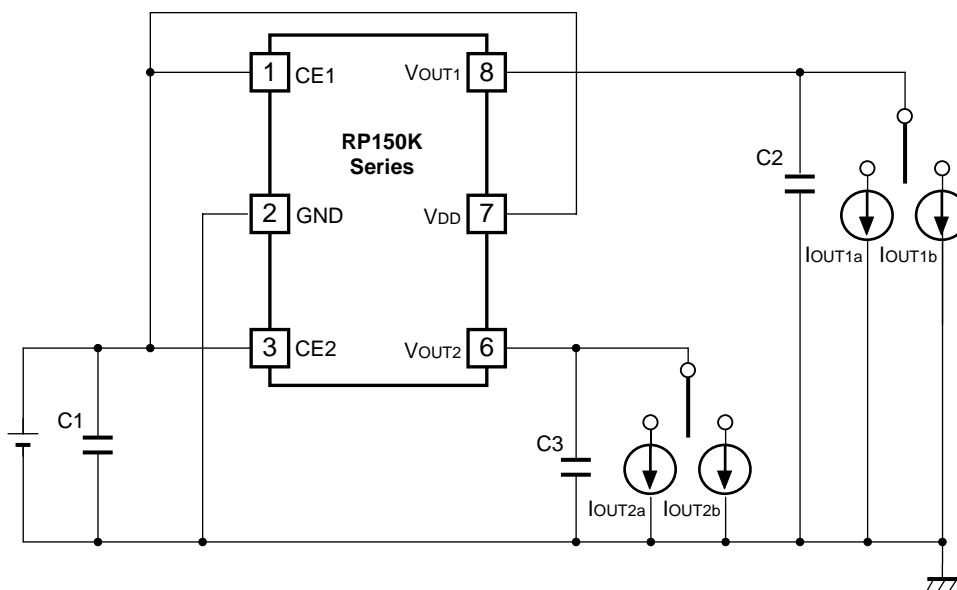
基本測定回路



消費電流測定回路



リップル除去率測定回路

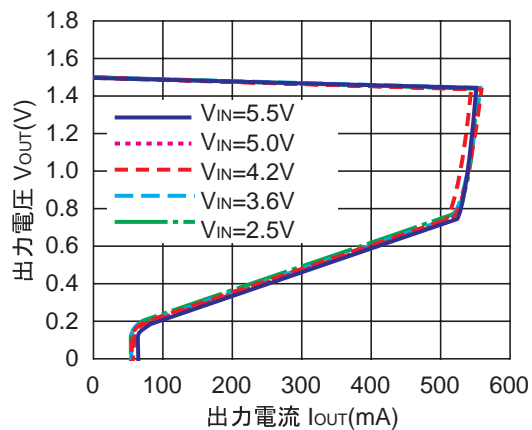


負荷過渡応答測定回路

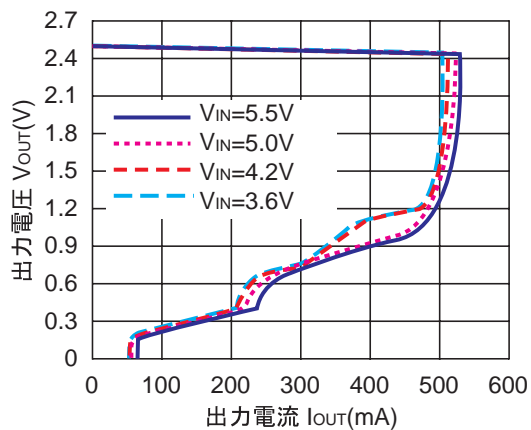
■ 特性例

1) 出力電圧対出力電流特性例 (T_{opt}=25°C)

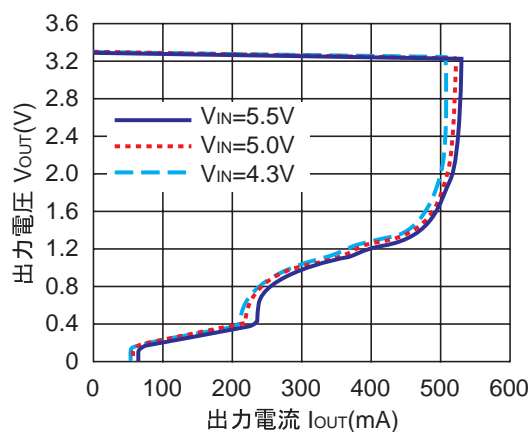
1.5V(VR1/VR2)



2.5V(VR1/VR2)

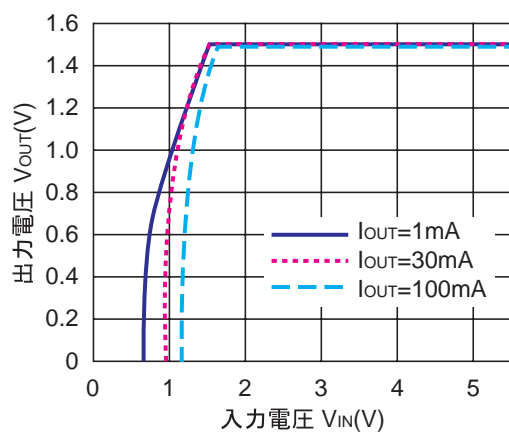


3.3V(VR1/VR2)

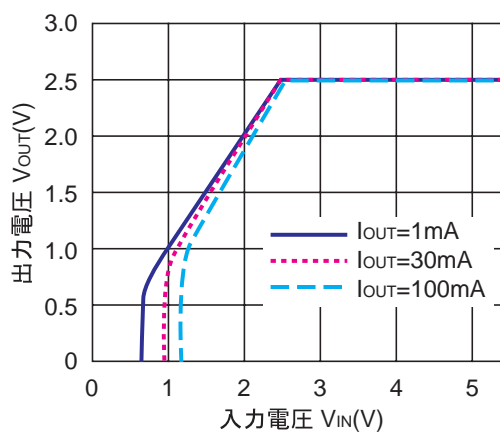


2) 出力電圧対入力電圧特性例 (T_{opt}=25°C)

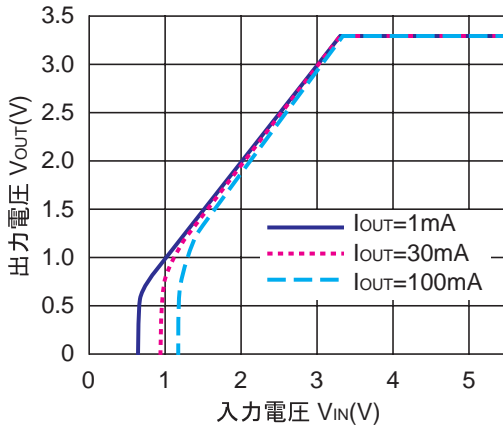
1.5V(VR1/VR2)



2.5V(VR1/VR2)

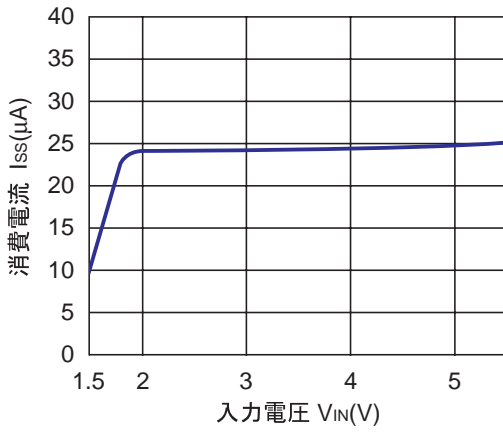


3.3V(VR1/VR2)

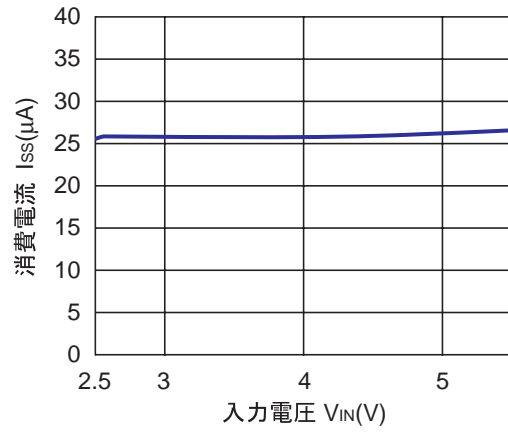


3) 消費電流対入力電圧特性例 (T_{opt}=25°C)

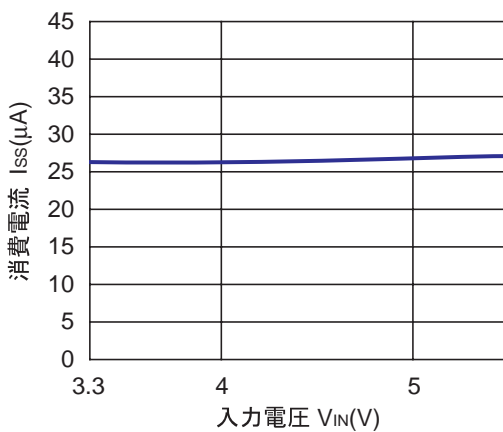
1.5V(VR1/VR2)



2.5V(VR1/VR2)

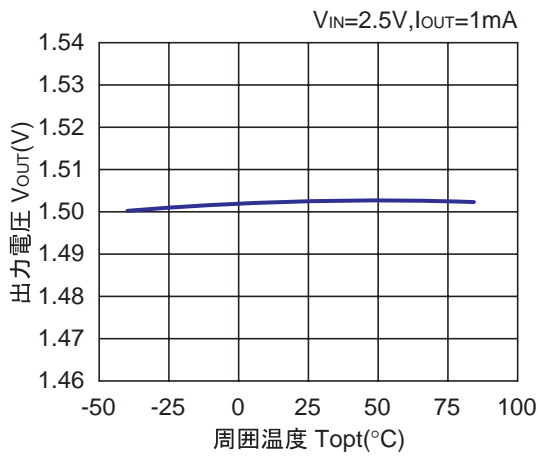


3.3V(VR1/VR2)

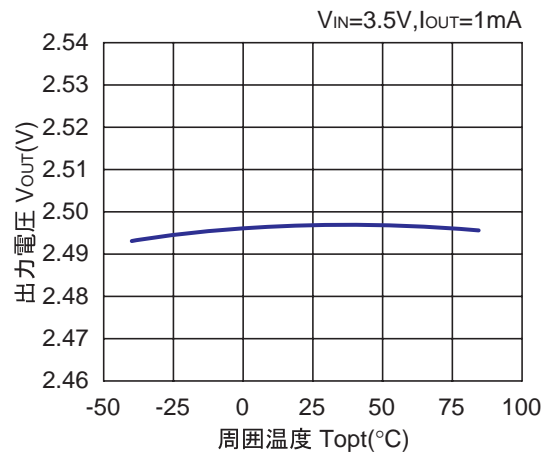


4) 出力電圧对周围温度特性例

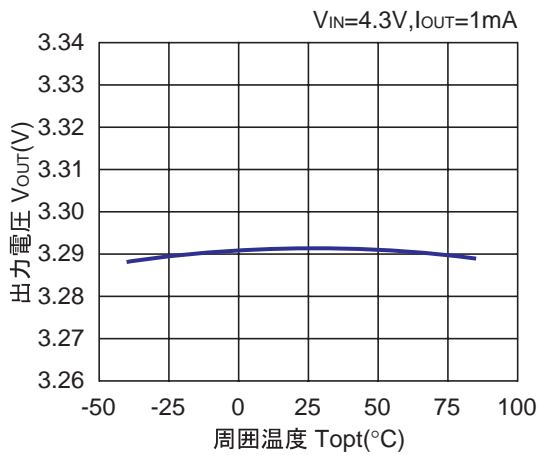
1.5V(VR1/VR2)



2.5V(VR1/VR2)

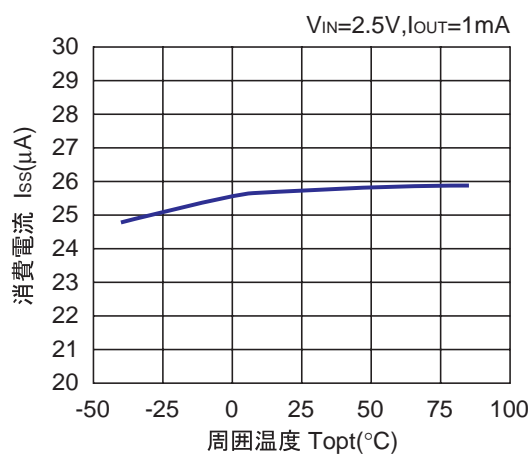


3.3V(VR1/VR2)

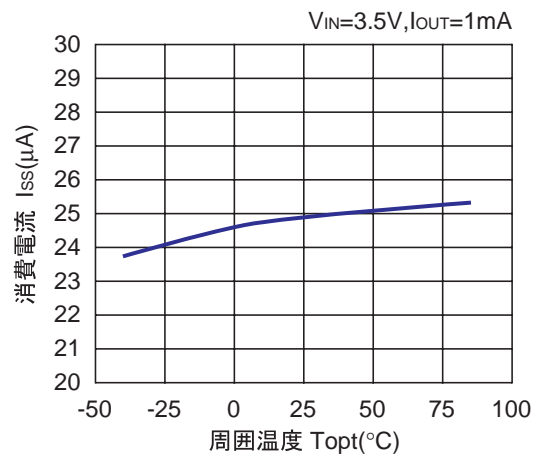


5) 消費電流对周围温度特性例

1.5V(VR1/VR2)

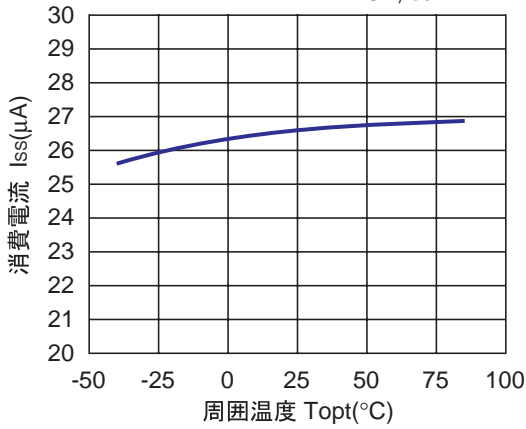


2.5V(VR1/VR2)



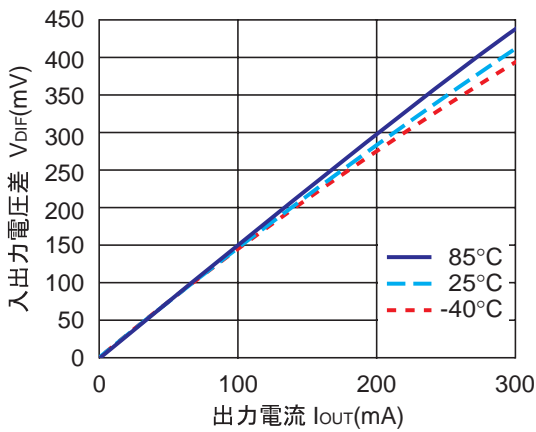
3.3V(VR1/VR2)

$V_{IN}=4.3V, I_{OUT}=1mA$

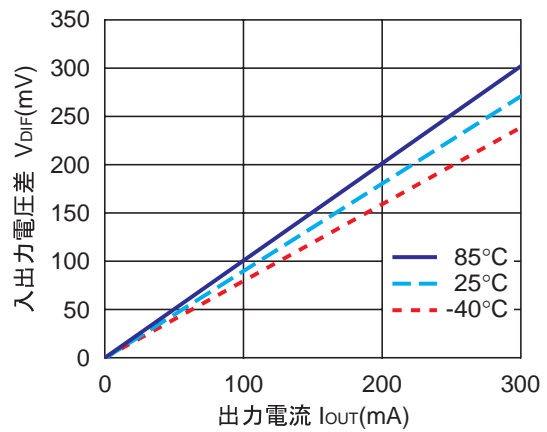


6) 入出力電圧差对出力電流特性例

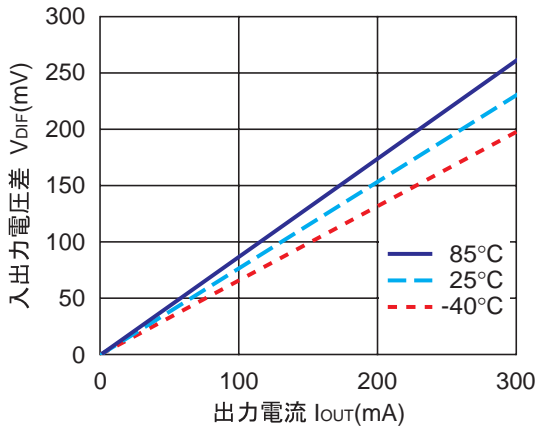
1.5V(VR1/VR2)



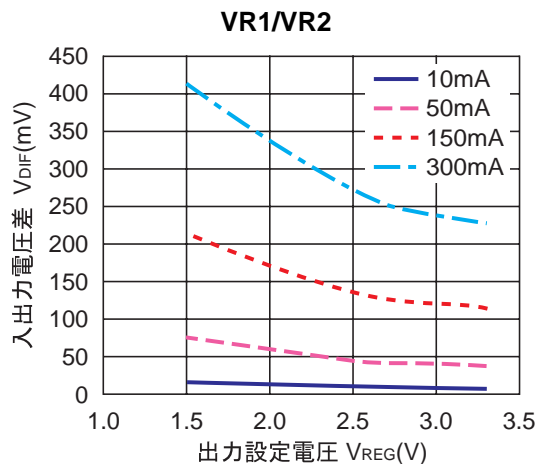
2.5V(VR1/VR2)



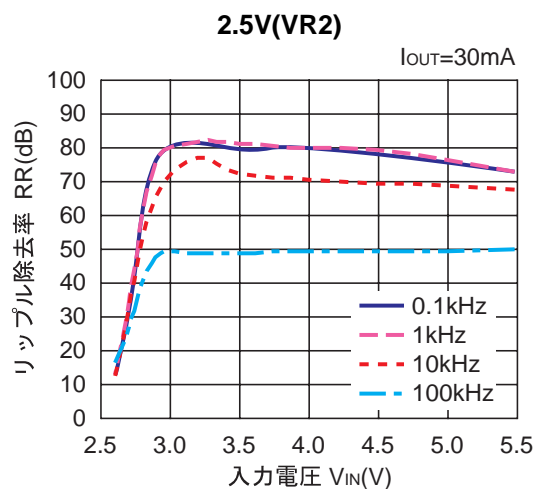
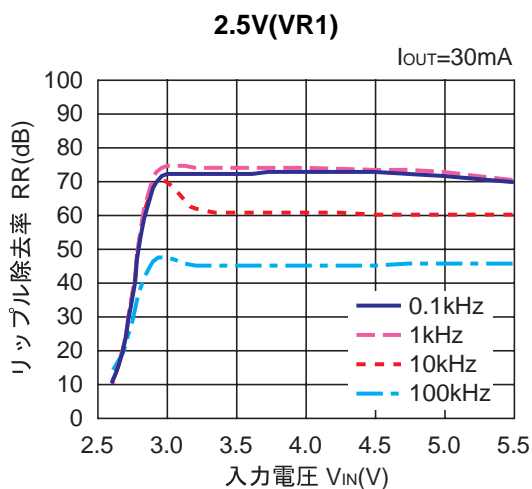
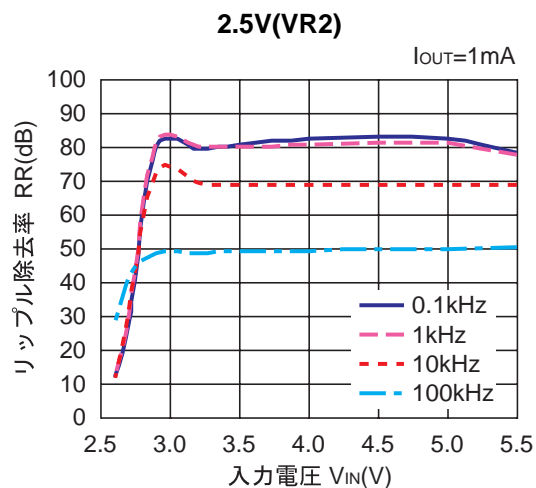
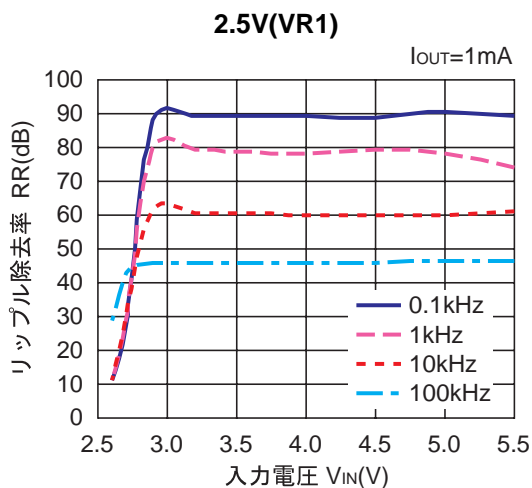
3.3V(VR1/VR2)

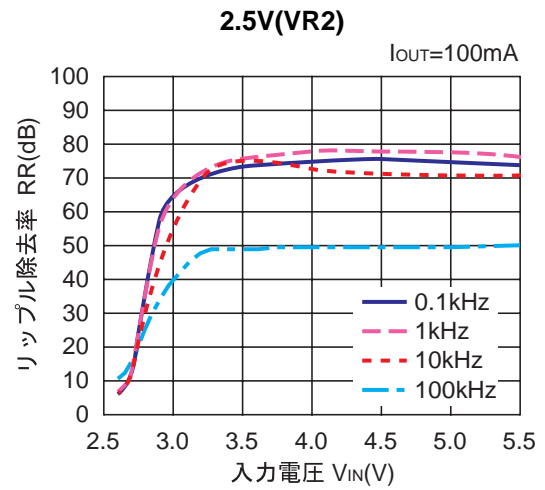
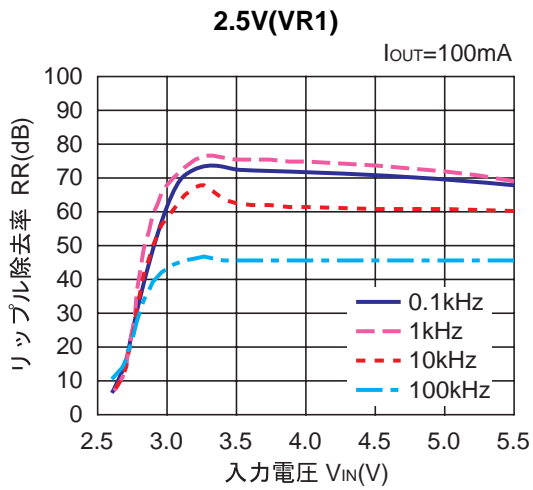


7) 入出力電圧差対出力設定電圧特性例

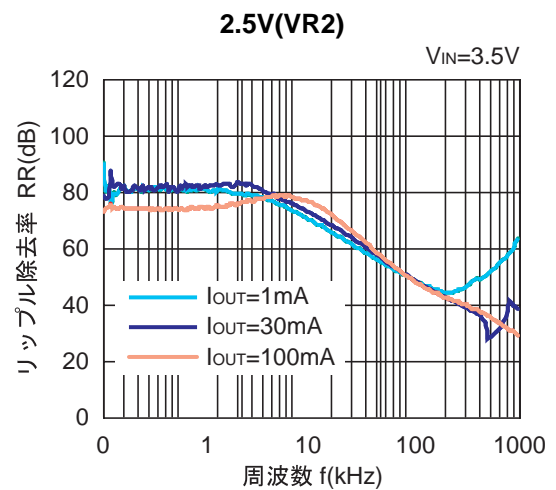
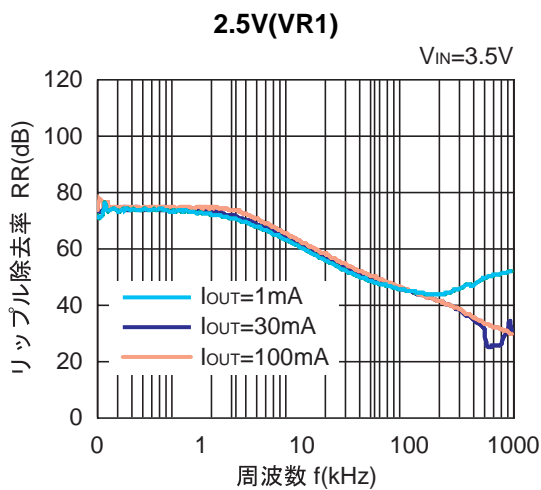
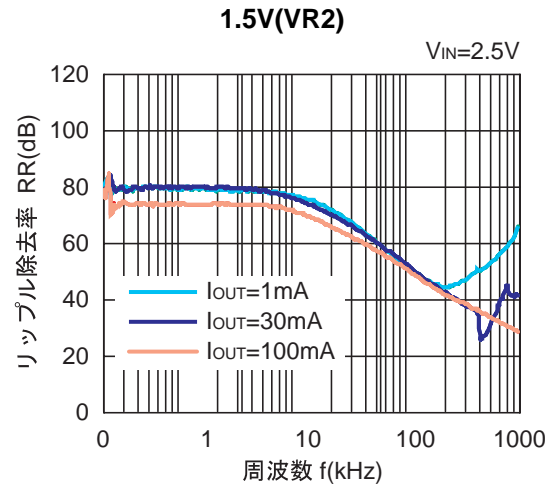
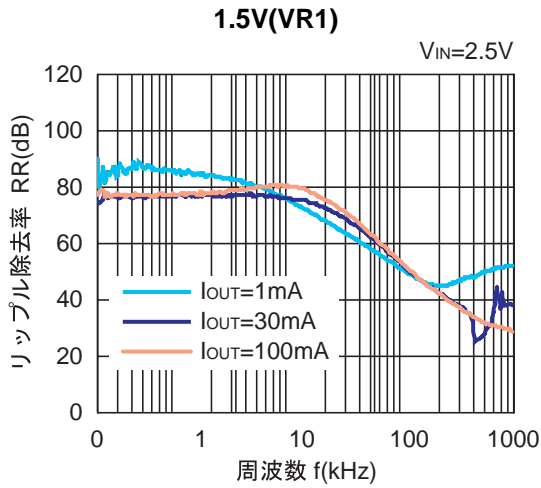


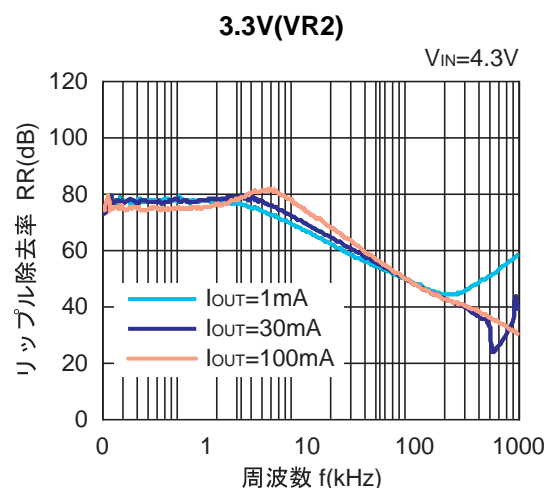
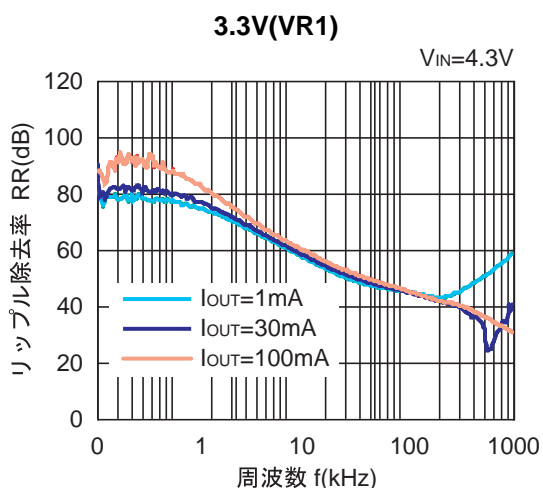
8) リップル除去率対入力バイアス電圧特性例 (リップル=0.5Vp-p, $T_{opt}=25^{\circ}C$)



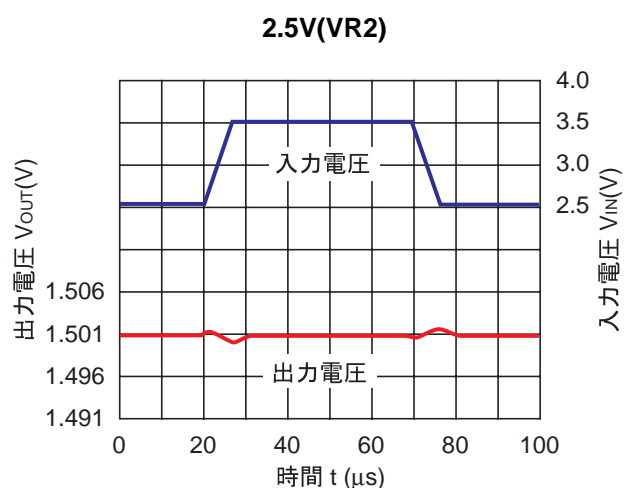
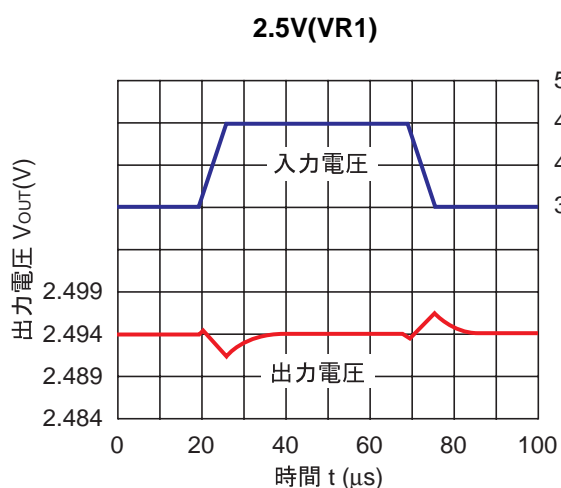
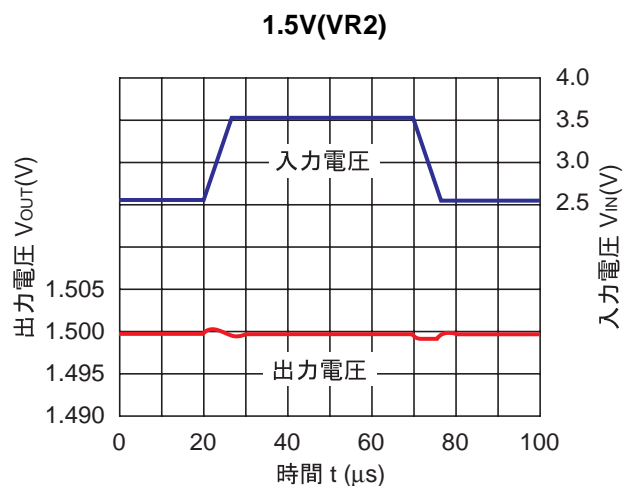
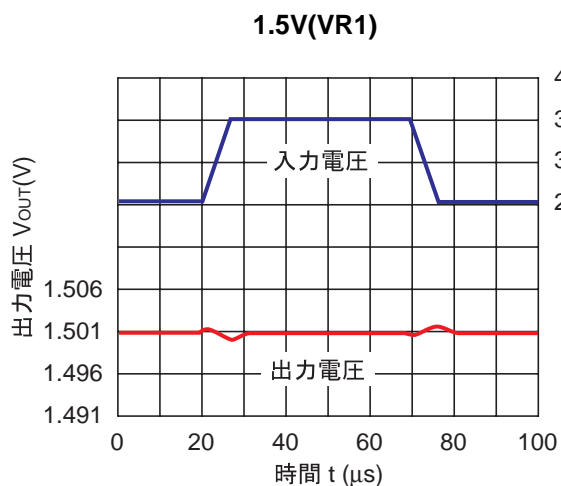


9) リプル除去率対周波数特性例 (リプル 0.5Vp-p)

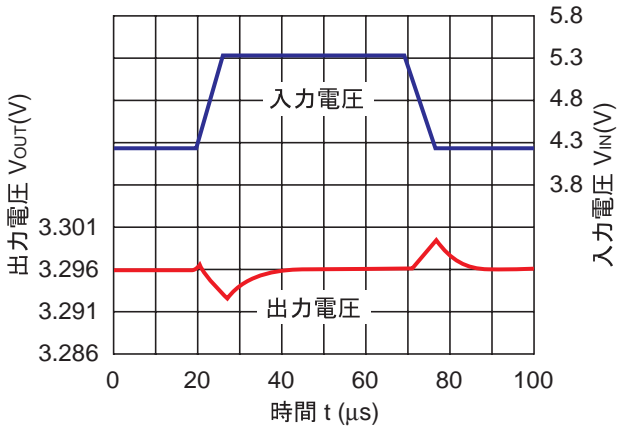




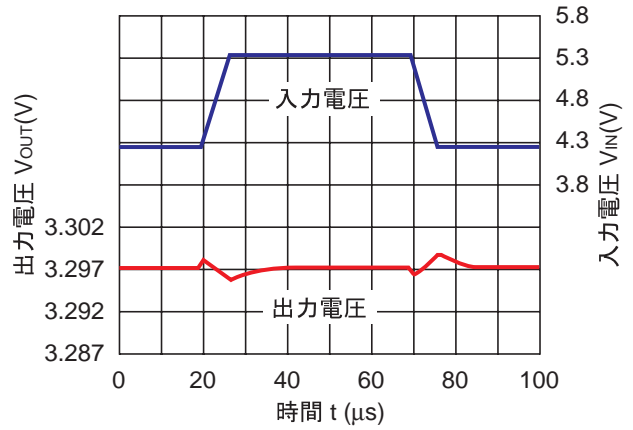
10) 入力過渡応答特性例 ($t_r=t_f=5\mu s$, $T_{opt}=25^\circ C$)



3.3V(VR1)

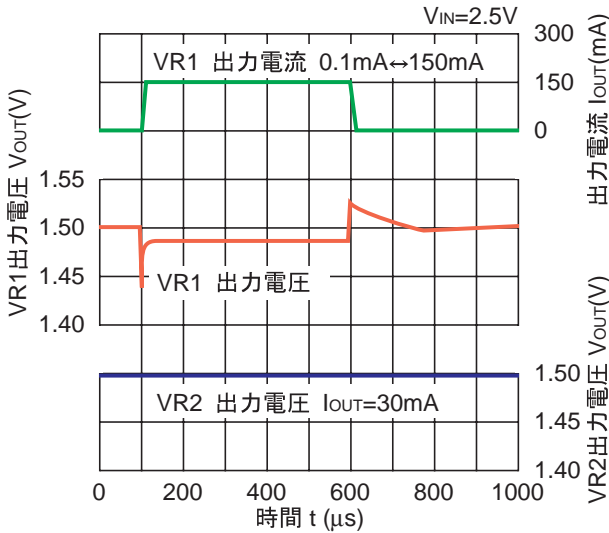


3.3V(VR2)

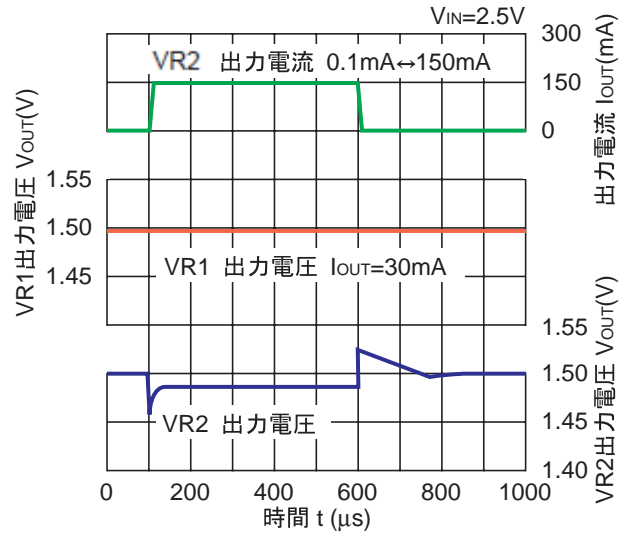


11) 負荷過渡応答特性例 ($t_r=t_f=500\text{ns}$, $T_{opt}=25^\circ\text{C}$)

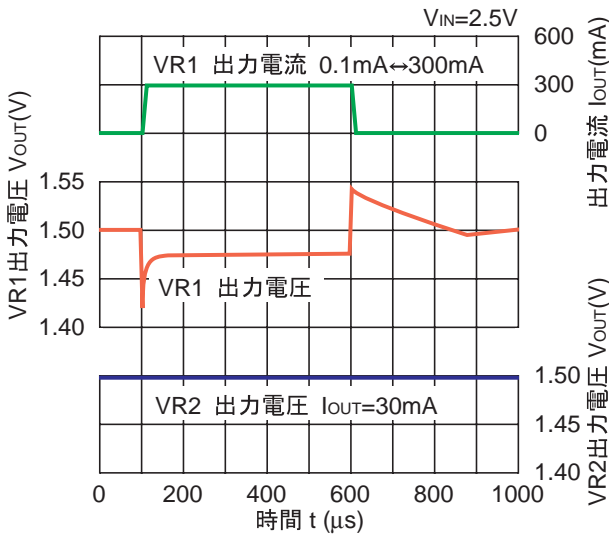
1.5V(VR1)



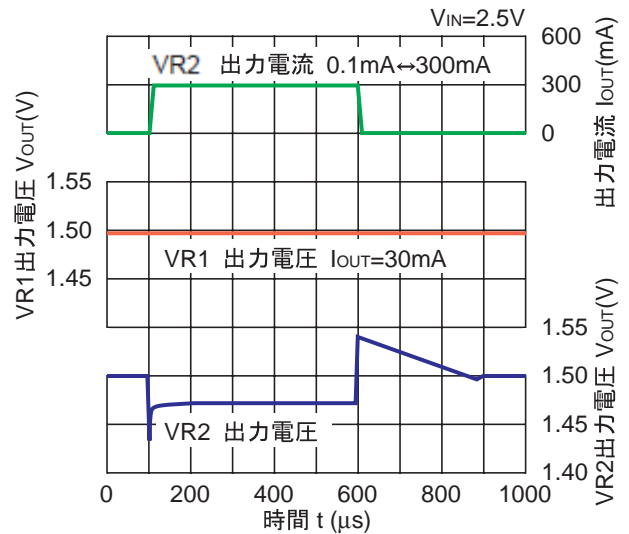
1.5V(VR2)

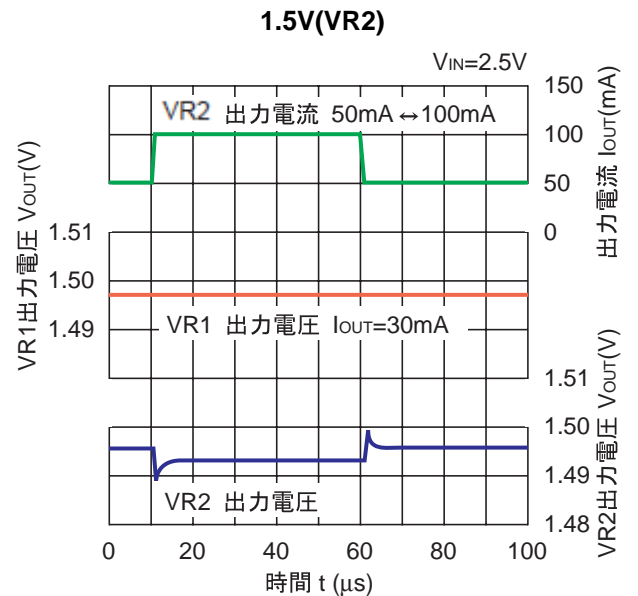
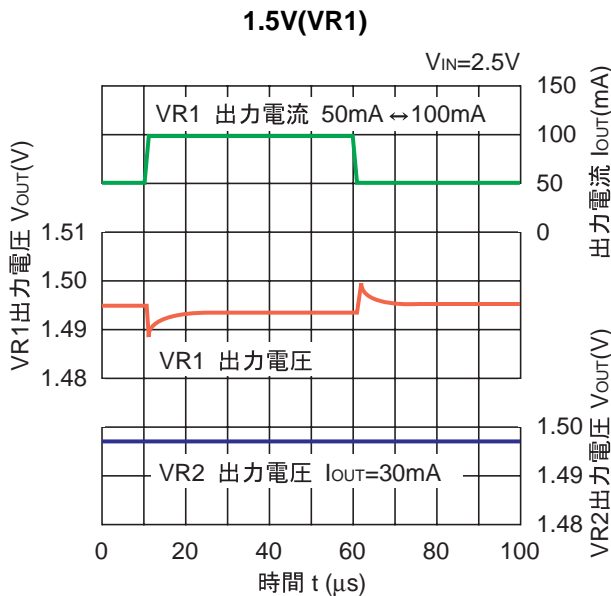
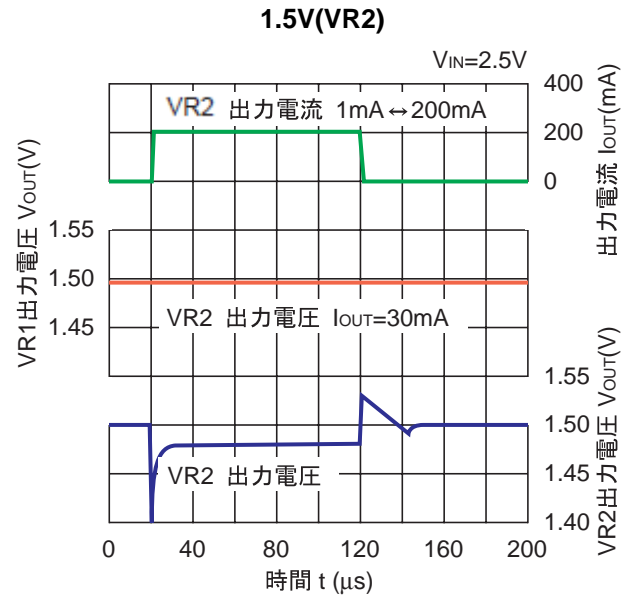
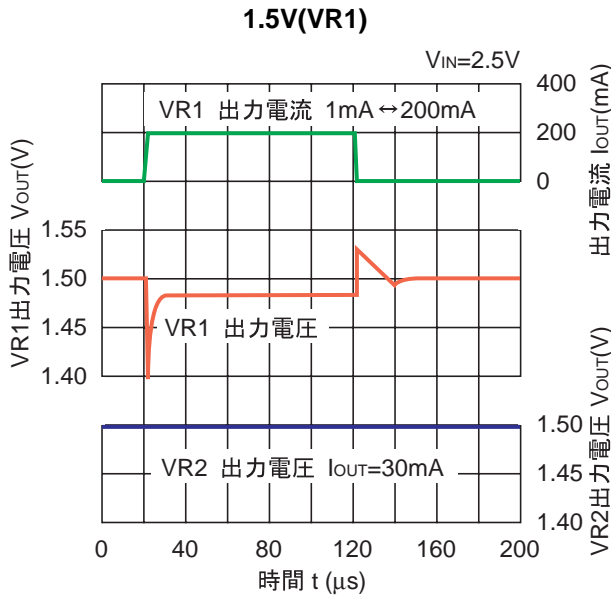
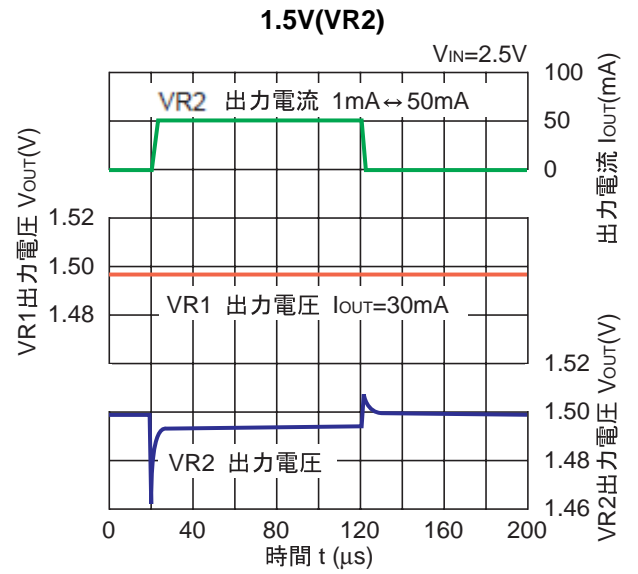
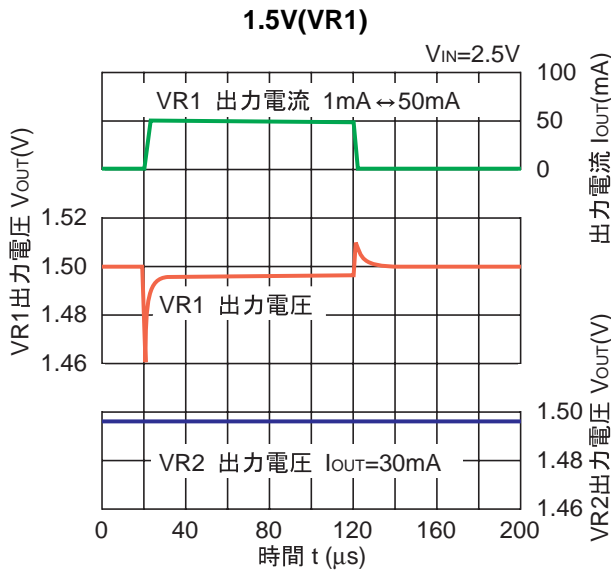


1.5V(VR1)

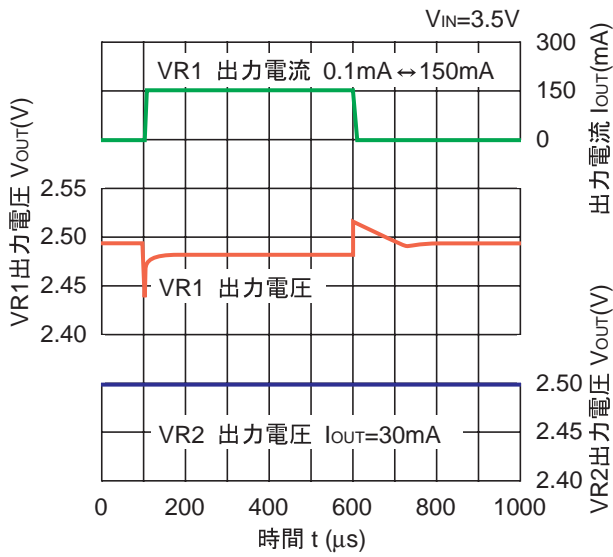


1.5V(VR2)

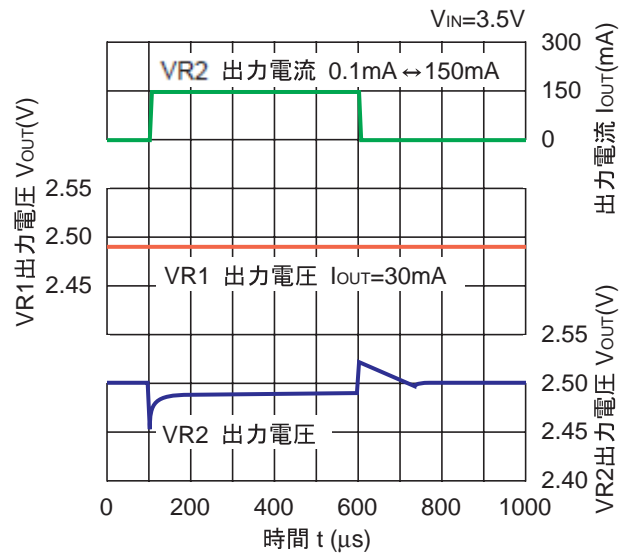




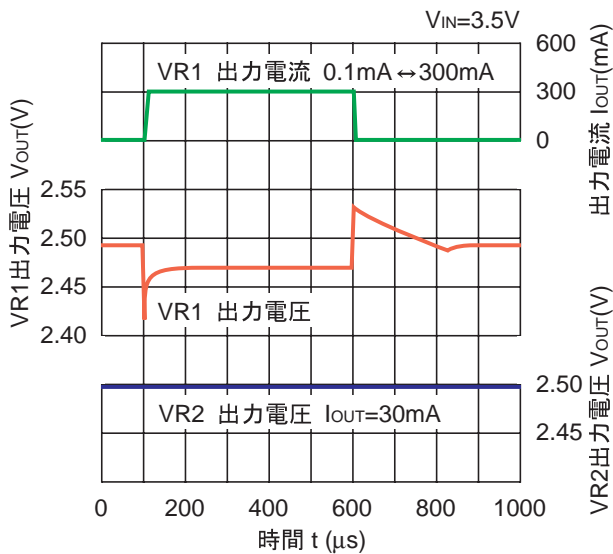
2.5V(VR1)



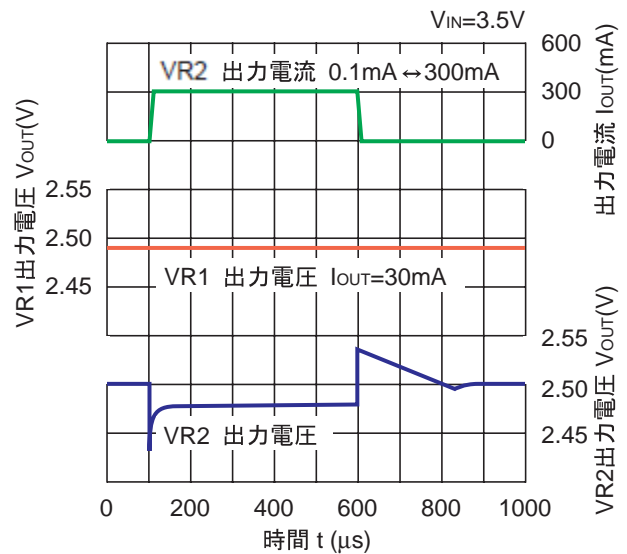
2.5V(VR2)



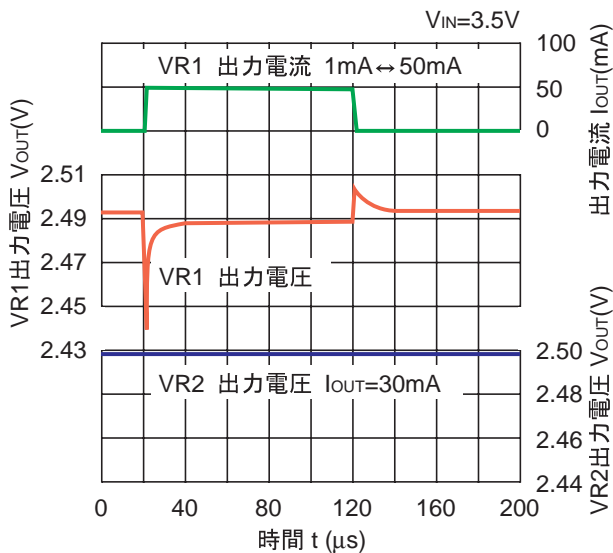
2.5V(VR1)



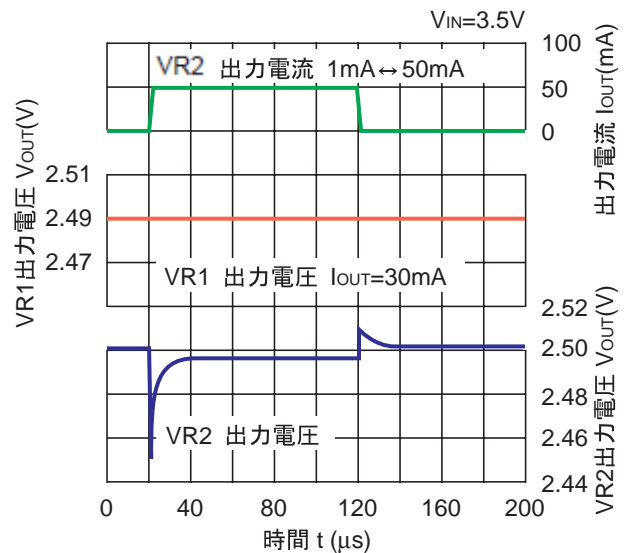
2.5V(VR2)



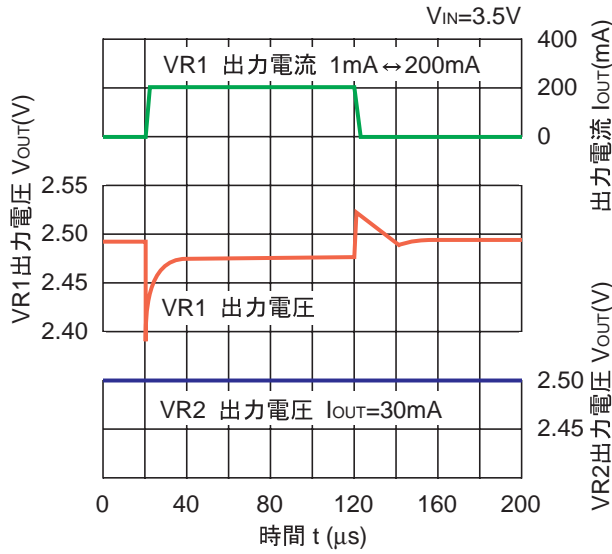
2.5V(VR1)



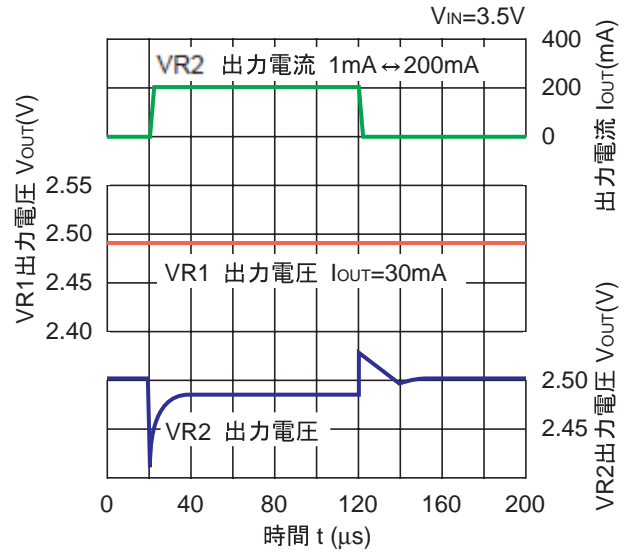
2.5V(VR2)



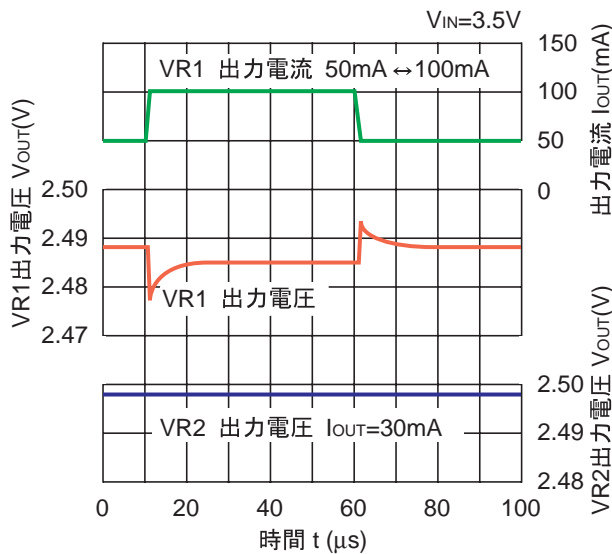
2.5V(VR1)



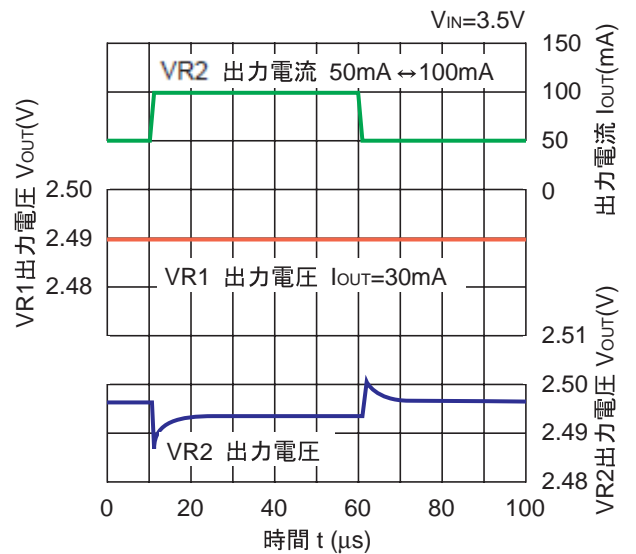
2.5V(VR2)



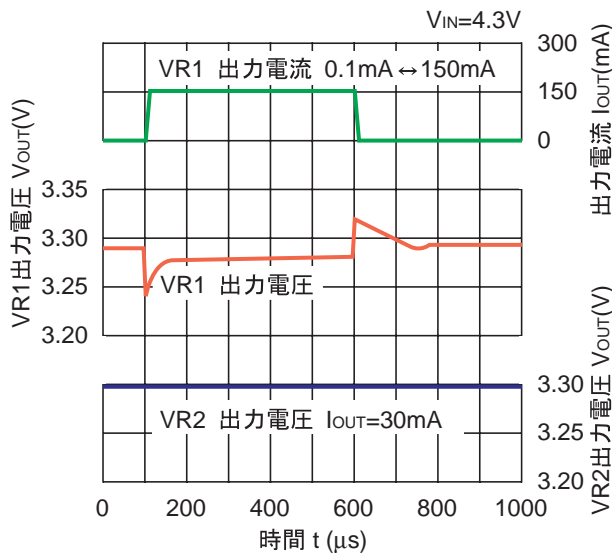
2.5V(VR1)



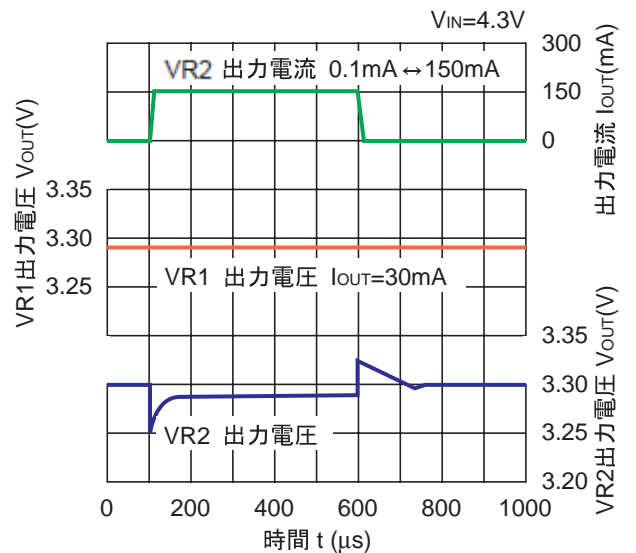
2.5V(VR2)



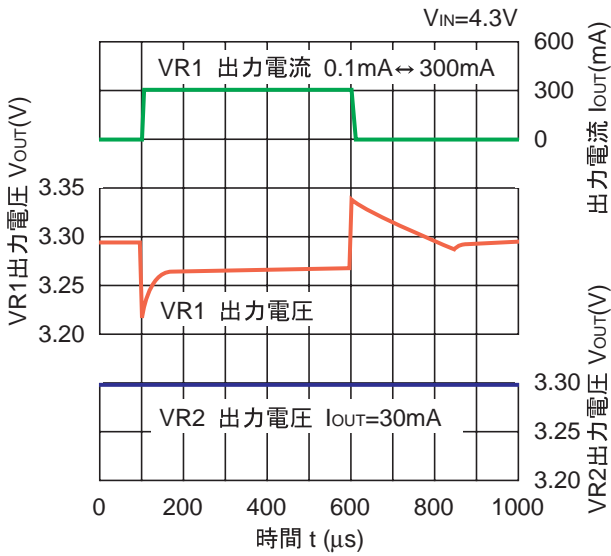
3.3V(VR1)



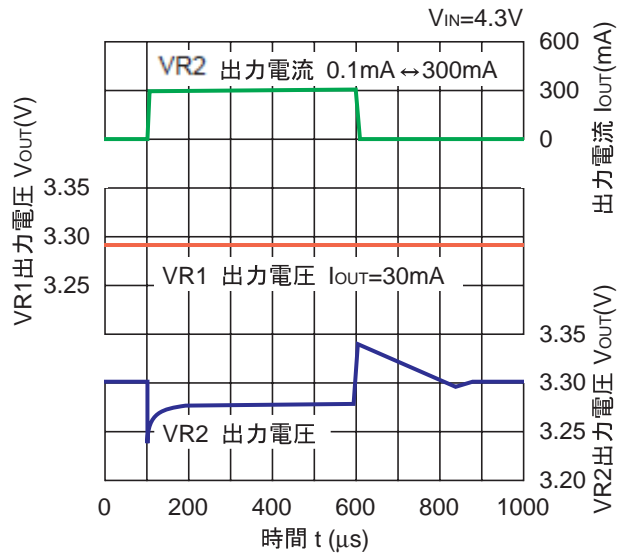
3.3V(VR2)



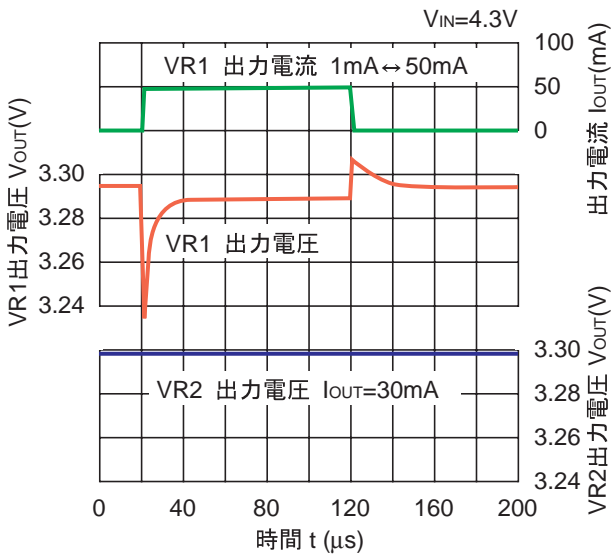
3.3V(VR1)



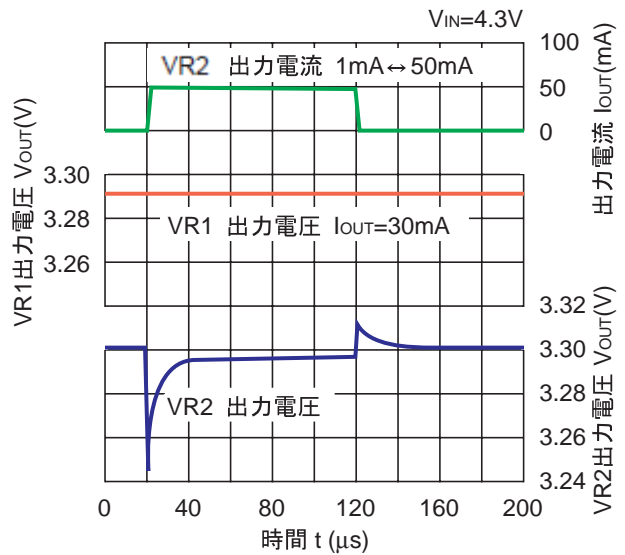
3.3V(VR2)



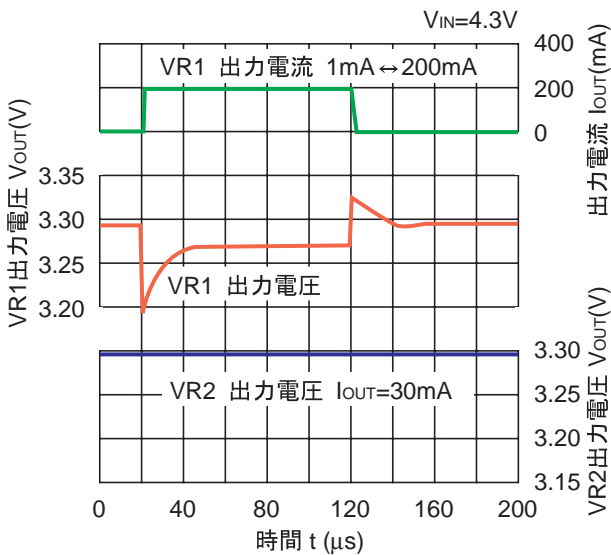
3.3V(VR1)



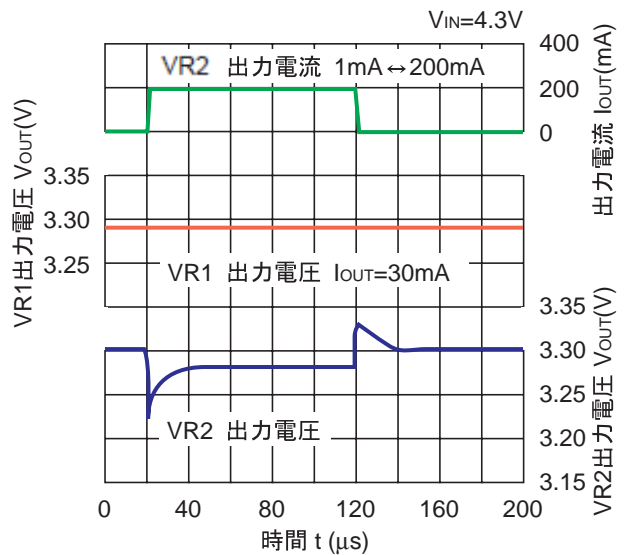
3.3V(VR2)

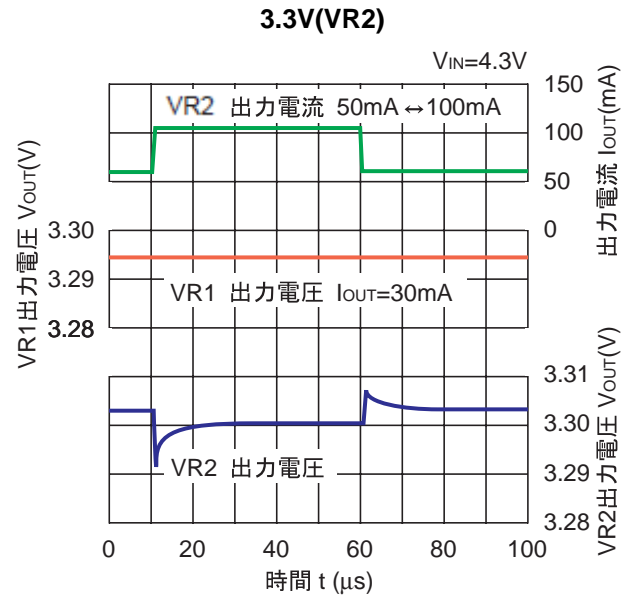
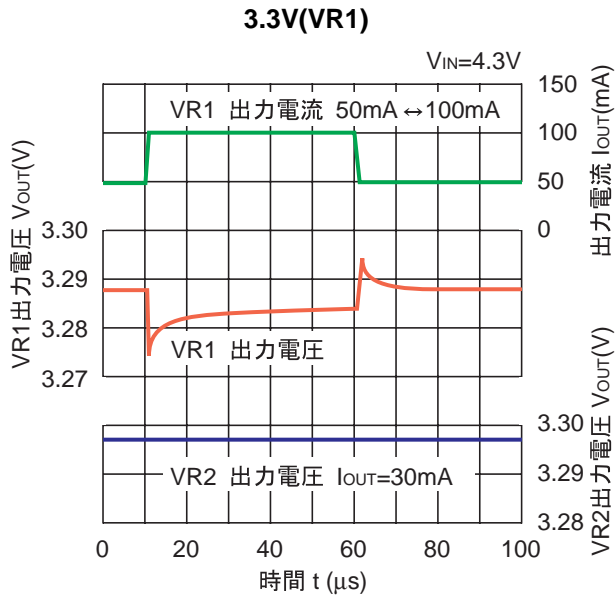


3.3V(VR1)

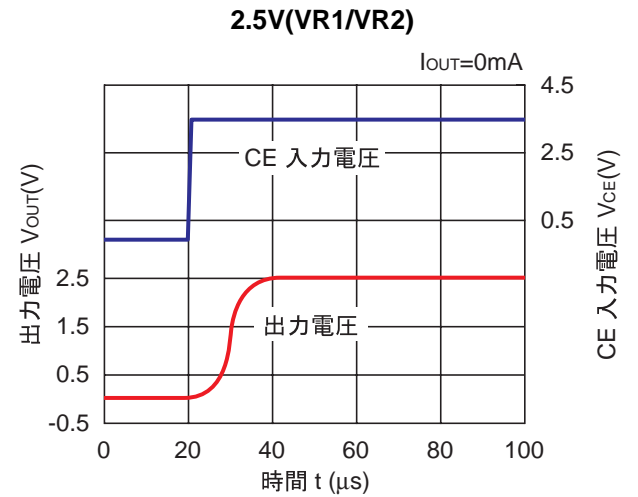
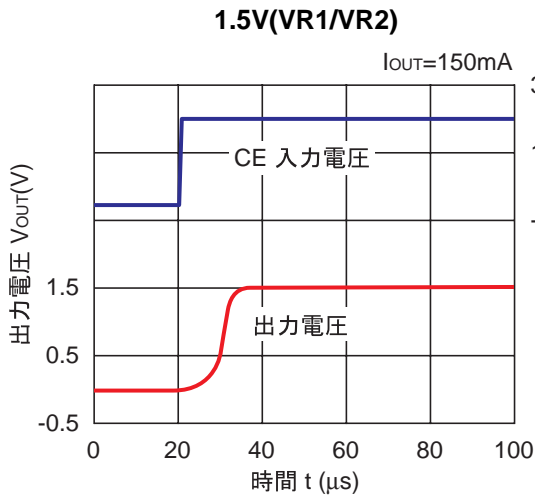
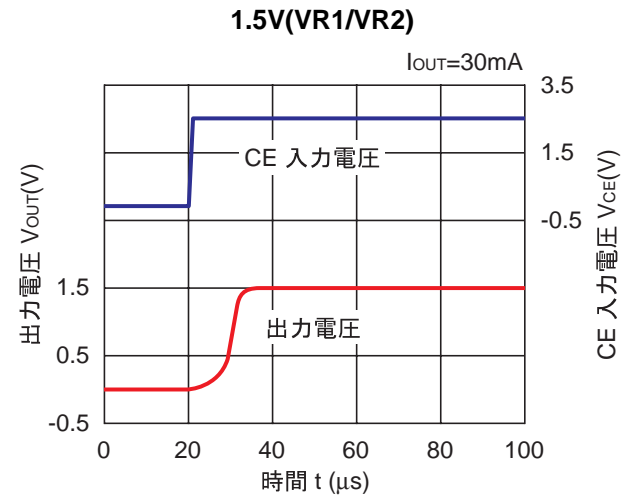
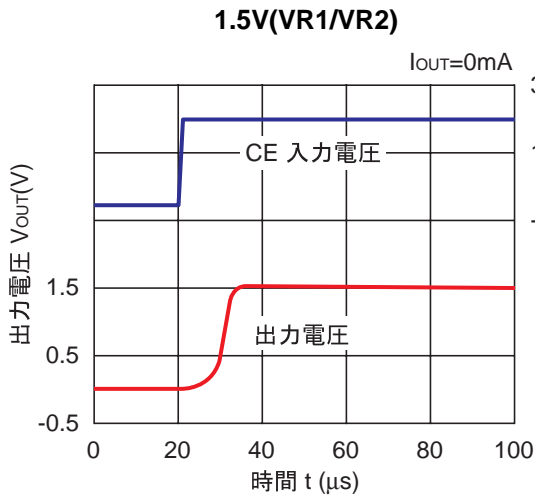


3.3V(VR2)

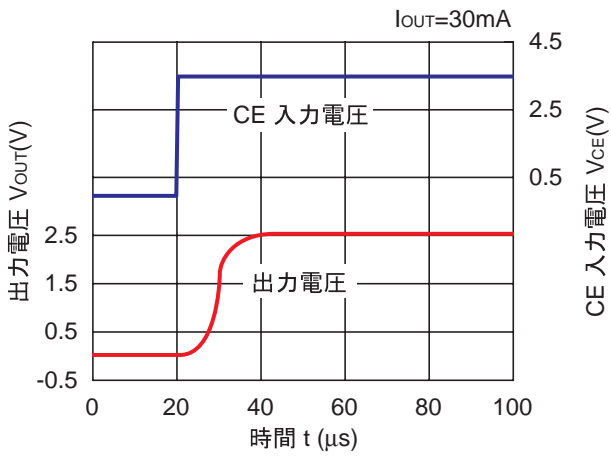




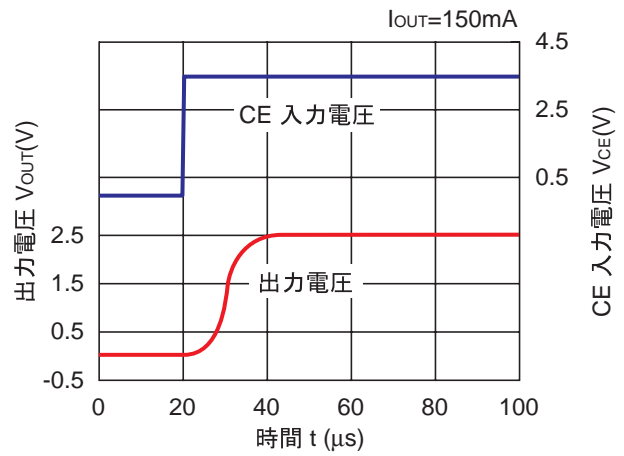
12) CE による立ち上がり時間特性例 ($T_{opt}=25^{\circ}C$)



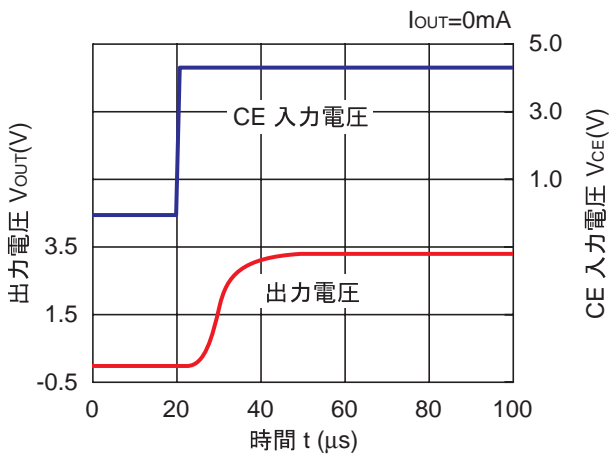
2.5V(VR1/VR2)



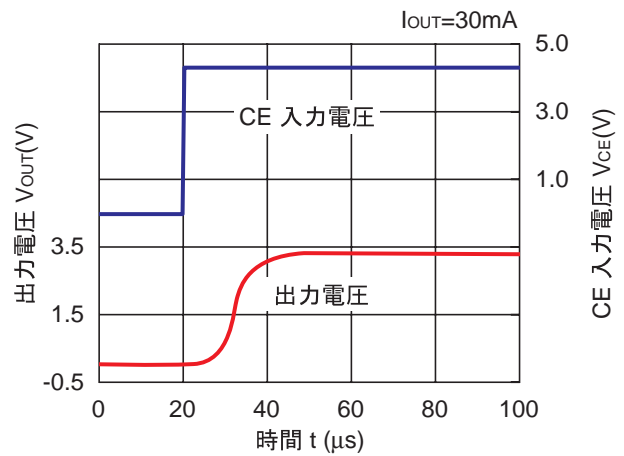
2.5V(VR1/VR2)



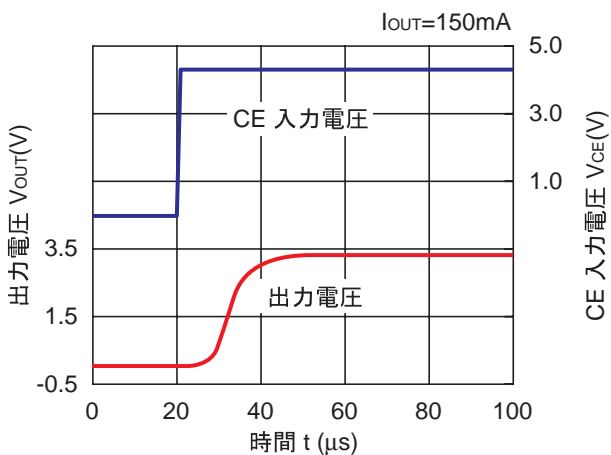
3.3V(VR1/VR2)



3.3V(VR1/VR2)

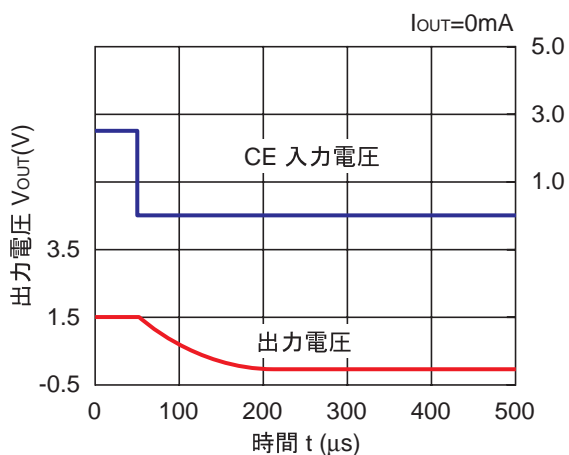


3.3V(VR1/VR2)

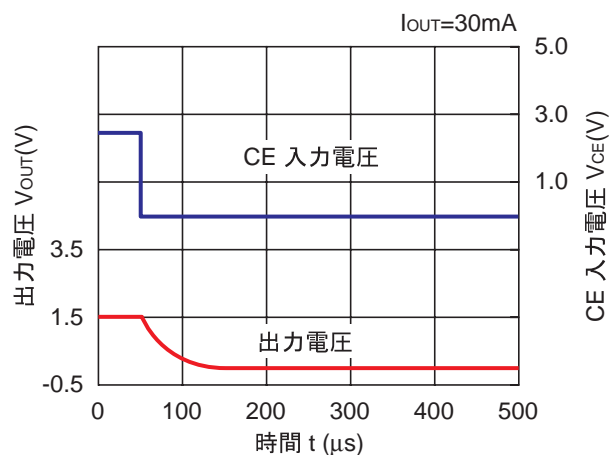


13) CE による立ち下がり時間特性例 (T_{opt}=25°C)

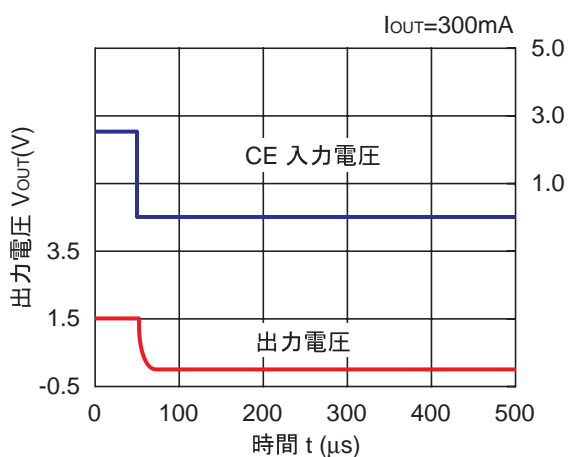
1.5V(VR1/VR2)



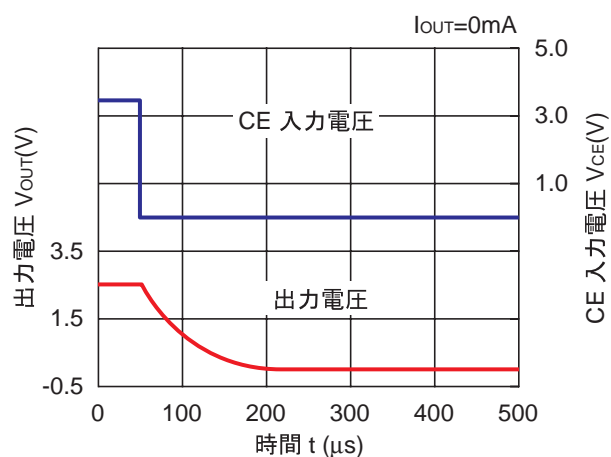
1.5V(VR1/VR2)



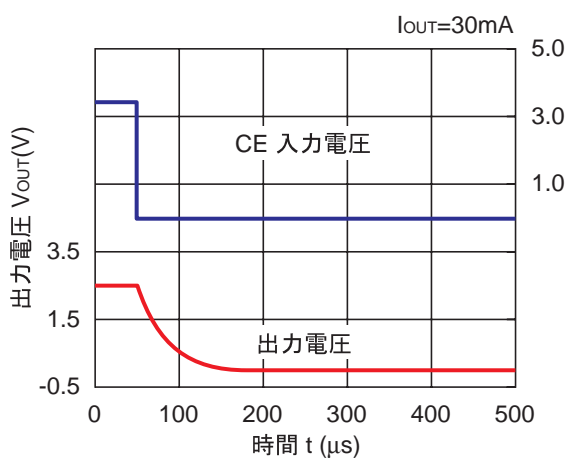
1.5V(VR1/VR2)



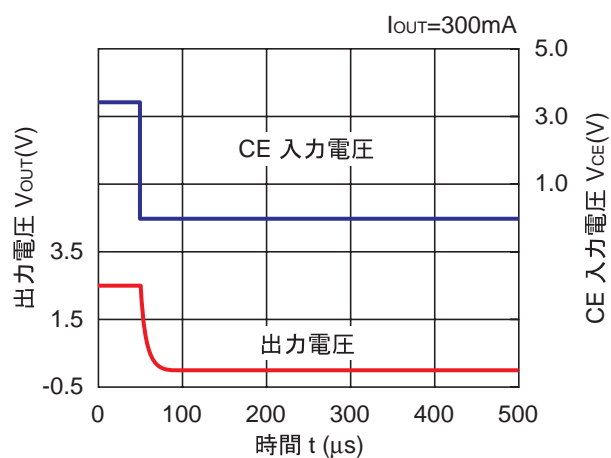
2.5V(VR1/VR2)



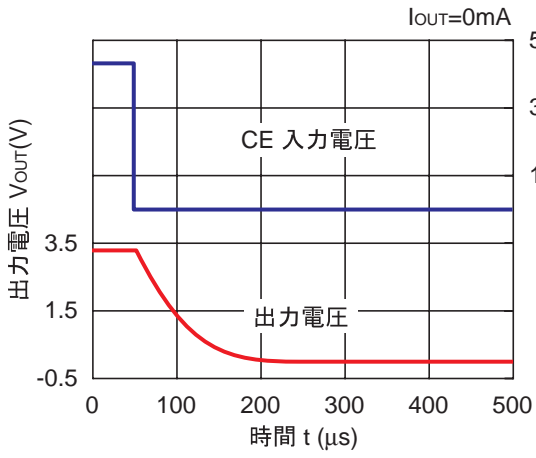
2.5V(VR1/VR2)



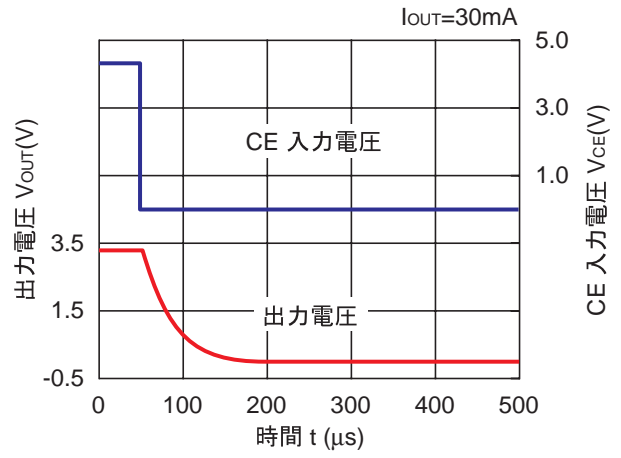
2.5V(VR1/VR2)



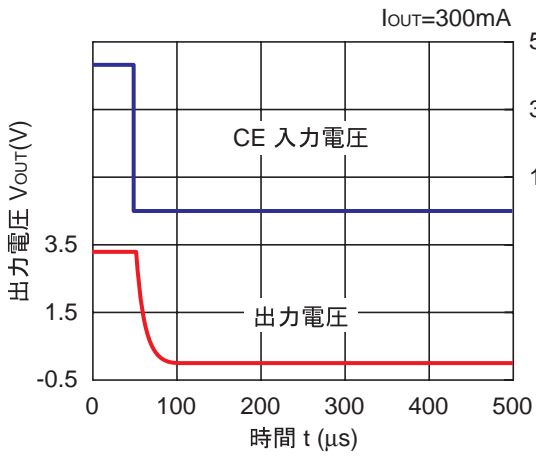
3.3V(VR1/VR2)



3.3V(VR1/VR2)



3.3V(VR1/VR2)

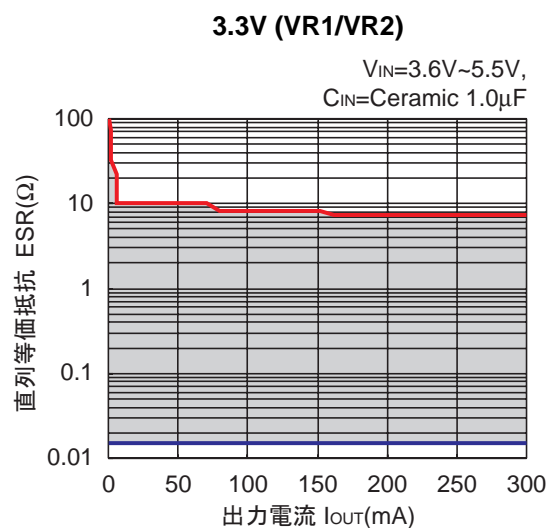
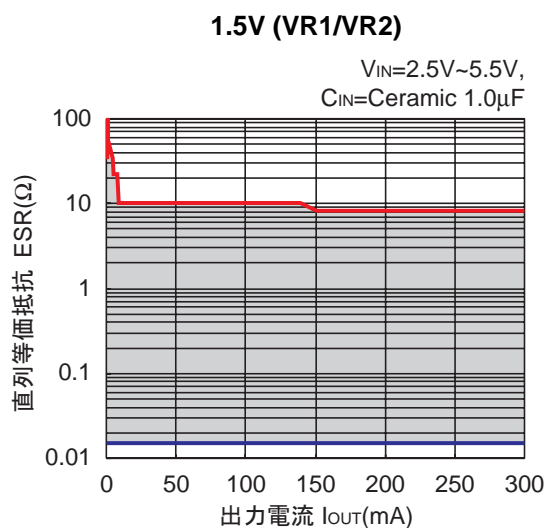


■ 直列等価抵抗値対出力電流特性例

本ICの出力コンデンサはセラミックタイプを推奨しますが、他の低ESRタイプのコンデンサも使用可能です。参考までにノイズレベルが $40\mu\text{V}$ (平均値) 以下になる出力電流 I_{OUT} と直列等価抵抗ESRの関係を以下に示します。

測定条件

- ・ $V_{\text{IN}} = \text{Set } V_{\text{OUT}} + 1\text{V}$
- ・ ノイズ周波数帯域 : 10Hz~2MHz
- ・ 周囲温度 : $-40^{\circ}\text{C} \sim 85^{\circ}\text{C}$
- ・ 網掛け部分 : ノイズレベルが $40\mu\text{V}$ (平均値) 以下





本ドキュメント掲載の技術情報及び半導体のご使用につきましては以下の点にご注意ください。

1. 本ドキュメントに記載しております製品及び製品仕様は、改良などのため、予告なく変更することがあります。又、製造を中止する場合がありますので、ご採用にあたりましては当社又は販売店に最新の情報をお問合せください。
2. 文書による当社の承諾なしで、本ドキュメントの一部、又は全部をいかなる形でも転載又は複製されることは、堅くお断り申し上げます。
3. 本ドキュメントに記載しております製品及び技術情報のうち、「外国為替及び外国貿易管理法」に該当するものを輸出される場合、又は国外に持ち出される場合は、同法に基づき日本国政府の輸出許可が必要です。
4. 本ドキュメントに記載しております製品及び技術情報は、製品を理解していただくためのものであり、その使用に関して当社及び第三者の知的財産権その他の権利に対する保証、又は実施権の許諾を意味するものではありません。
5. 本ドキュメントに記載しております製品は、標準用途として一般的電子機器(事務機、通信機器、計測機器、家電製品、ゲーム機など)に使用されることを意図して設計されております。故障や誤動作が人命を脅かしたり、人体に危害を及ぼす恐れのある特別な品質、信頼性が要求される装置(航空宇宙機器、原子力制御システム、交通機器、輸送機器、燃焼機器、各種安全装置、生命維持装置等)に使用される際には、必ず事前に当社にご相談ください。
6. 当社は品質、信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生します。故障の結果として人身事故、火災事故、社会的な損害等を生じさせない冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等安全設計に十分ご注意ください。誤った使用又は不適切な使用に起因するいかなる損害等についても、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。
7. 本ドキュメントに記載しております製品は、耐放射線設計はなされてございません。
8. X線照射により製品の機能・特性に影響を及ぼす場合があるため、評価段階で機能・特性を確認の上でご利用ください。
9. WLCSPパッケージの製品は、遮光状態でご利用ください。光照射環境下(動作、保管中含む)では、機能・特性に影響を及ぼす場合があるためご注意ください。
10. パッケージ捺印は、画像認識装置の仕様によって文字認識に差が生じることがあります。画像認識装置にて文字認識をする場合は、事前に弊社販売店または弊社営業担当者までお問い合わせください。
11. 本ドキュメント記載製品に関する詳細についてのお問合せ、その他お気付きの点がございましたら当社又は販売店までご照会ください。



当社は地球環境保全の観点から環境負荷物質の低減に取り組んでいます。

2006年4月1日以降、弊社はRoHS指令に適合した製品を提供しています。また、2012年4月1日以降は、ハロゲンフリー製品を提供しています。

RICOH リコー電子デバイス株式会社

弊社デバイスに関する詳しい内容をお知りになりたい方は下記へアクセスしてください。

<http://www.e-devices.ricoh.co.jp/>

本ドキュメント掲載製品に関するお問い合わせは下記宛までお願いします。

- 東日本地区 〒140-8655 東京都品川区東品川3-32-3
03(5479)2854 (直) FAX 03(5479)0502
- 西日本地区 〒563-8501 大阪府池田市姫室町13-1
072(748)6262 (直) FAX 072(753)2120

●お問い合わせ・ご用命は・・・